

3. 専門分野

教育内容	授業科目	単 位	時 間
基礎看護学 【13単位】	看護学概論	1	30
	共通基本技術Ⅰ	1	15
	共通基本技術Ⅱ	1	30
	共通基本技術Ⅲ	1	30
	日常生活援助技術Ⅰ	1	15
	日常生活援助技術Ⅱ	1	30
	日常生活援助技術Ⅲ	1	30
	診療に伴う技術	2	45
	フィジカルアセスメント	1	30
	臨床看護総論	1	30
	看護探究Ⅰ	1	15
	看護探究Ⅱ	1	30
地域・在宅看護論 【6単位】	地域・在宅看護概論Ⅰ	1	15
	地域・在宅看護概論Ⅱ	1	30
	地域・在宅看護援助論Ⅰ	1	30
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30
	草津市の看護Ⅰ	1	15
	草津市の看護Ⅱ	1	15
成人看護学 【6単位】	成人看護学概論	1	15
	成人看護学援助論Ⅰ	1	30
	成人看護学援助論Ⅱ	1	30
	成人看護学援助論Ⅲ	1	15
	成人看護学援助論Ⅳ	1	30
	クリティカルケア看護学	1	30

教育内容	授業科目	単 位	時 間
老年看護学 【5単位】	老年看護学概論Ⅰ	1	15
	老年看護学概論Ⅱ	1	15
	老年看護学援助論Ⅰ	1	30
	老年看護学援助論Ⅱ	1	30
	リハビリテーション看護	1	15
小児看護学 【4単位】	小児看護学概論	1	30
	小児看護学援助論Ⅰ	1	15
	小児看護学援助論Ⅱ	1	30
	小児看護学援助論Ⅲ	1	30
母性看護学 【4単位】	母性看護学概論	1	30
	母性看護学援助論Ⅰ	1	15
	母性看護学援助論Ⅱ	1	30
	母性看護学援助論Ⅲ	1	30
精神看護学 【4単位】	精神看護学概論Ⅰ	1	30
	精神看護学概論Ⅱ	1	15
	精神看護学援助論Ⅰ	1	30
	精神看護学援助論Ⅱ	1	30
看護の統合と実践 【4単位】	看護管理	1	15
	看護医療安全	1	30
	災害看護と国際協力	1	30
	臨床看護技術演習	1	15
合 計		46	1125

教育内容	授業科目	単 位	時 間
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45
	基礎看護学実習Ⅱ	2	90
	基礎看護学実習Ⅲ	2	90
	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	45
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90
	成人・老年看護学実習Ⅰ	2	90
	成人・老年看護学実習Ⅱ	2	90
	成人・老年看護学実習Ⅲ	1	45
	成人・老年看護学実習Ⅳ	2	90
	成人・老年看護学実習Ⅴ	1	45
	小児看護学実習	2	90
	母性看護学実習	2	90
	精神看護学実習	2	90
	統合実習	2	90
合 計		24	1080

分野	専門分野	授業 科目名	看護学概論	
開始 年次	1 年 前期	単位数 時間数	1 単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
1. 看護の基本となる概念と看護の対象を理解する。 2. 保健医療における看護の役割を理解する。 3. 看護職者としての倫理を理解する。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
4	1. 看護とは何かが理解できる。	1) 看護とは	(1) 看護の本質 (2) 看護の役割と機能 (3) 看護の機能性と連携	講義
15	2. 看護の対象としての人間が理解できる。	1) 看護の対象の理解 2) 国民の健康状態と生活 3) 健康障害を持つ対象の理解 4) 看護の提供者	(1) 人間の「こころ」と「からだ」を知ることを意味 (2) 生涯発達しつづける存在としての人間の理解 (3) 人間の「暮らし」の理解 (1) 健康のとらえ方 (2) 国民の健康状態 (3) 国民のライフサイクル (1) 健康障害とその影響 (2) 身体的・精神的・社会的・文化的側面の関連性 (1) 職業としての看護 (2) 看護職の資格・養成制度・就業状況 (3) 看護職者の継続教育とキャリア開発 (4) 看護職の養成制度の課題	講義 演習
10	3. 看護における倫理について理解できる。	1) 看護における倫理	(1) 現代社会と倫理 (2) 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 (3) 看護実践における倫理問題への取り組み	講義 演習
1	単位認定試験：筆記試験（50％） 演習課題（50％）			
テキスト				
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔1〕 看護学概論 医学書院 看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア				

分野	専門分野	授業 科目名	共通基本技術 I	
開始 年次	1 年 前期	単位数 時間数	1 単位 15時間	
授業の目的及びねらい				
看護実践の基盤となる看護技術とは何かを学ぶ。 人間関係を成立させるためのコミュニケーション技術、対象者に合わせた学習支援について学ぶ。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
2	1. 看護技術の概念と、その重要性が理解できる。	1) 技術と看護技術	(1) 技術の定義 (2) 看護技術の定義・特徴	講義
		2) 看護技術の実践	(1) 看護技術を実践するための要素看護技術の4つの原則 安全性・安楽性 自立性・経済性	講義
10	2. 看護における効果的なコミュニケーション技術について理解できる。	1) 看護におけるコミュニケーション	(1) 看護におけるコミュニケーションの意義と目的 (2) コミュニケーションの構成要素と成立過程 ①コミュニケーションの構造とプロセス ②コミュニケーションを阻害する因子	講義
		2) コミュニケーション技術	(1) コミュニケーションの種類 ①言語的コミュニケーション ②非言語的コミュニケーション (2) 看護場面における効果的なコミュニケーション技術 ①情報収集の技術 ②聴く・話す・理解する技術 (3) 対人関係の振り返り ①プロセスレコード ②リフレクション	講義 演習
2	3. 看護における学習支援の基礎が理解できる。	1) 学習支援	(1) 看護における学習支援 (2) 対象者に合わせた支援方法 (3) 個別指導と集団指導	講義
1	単位認定試験：筆記試験			
テキスト				
系統看護学講座 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術 I 医学書院				

分野	専門分野	授業 科目名	共通基本技術Ⅱ	
開始 年次	1 年 前期	単位数 時間数	1 単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
環境を整える必要性を理解し、対象者にとって快適な環境を調整できる能力を養う。 医療従事者における感染予防の重要性を理解し、技術が習得できる。 生命活動のサインであるバイタルサイン測定について理解し、技術が習得できる。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
13	1. 生活環境を調整することの重要性を理解し、その方法が習得できる。	1) 人間の生活と環境	(1) 環境とは (2) 環境調整の意義	講義
		2) 健康障害のある人と生活環境	(1) 病院 (2) 病棟 (3) 病室 (4) 病床 (5) 望ましい療養環境 明るさ 音 室内気候 空気・におい 人的環境	
		3) 療養環境を整える援助	(1) 環境整備の意義 (2) 環境整備の視点 (3) 環境整備の実際 《快適な療養環境の整備》 《臥床患者のリネン交換》 《環境見学》	講義 実技演習
6	2. 感染予防の技術が習得できる。	1) 感染予防の基本	(1) 感染の成立と経路 (2) 感染予防策 ①標準予防策（スタンダードプリコーション） ②手指衛生 ③個人防護用具（PPE） ④感染経路別予防策 ⑤感染性廃棄物の取り扱い ⑥洗浄・消毒・滅菌の基礎知識と対策の実際 ⑦無菌操作 ⑧滅菌物の取り扱い (3) 医療施設における感染管理	講義
		2) 感染予防の実際	《衛生的手洗い、必要な防護用具の選択・着脱、無菌操作》	実技演習
10	3. バイタルサインの測定技術が習得できる。	1) バイタルサイン測定の意義と基本	(1) バイタルサインとは (2) 体温測定 (3) 呼吸測定、動脈血酸素飽和度 (4) 脈拍測定 (5) 血圧測定 (6) バイタルサイン評価	講義
		2) バイタルサイン測定の実際	《バイタルサインの測定》	実技演習
1	単位認定試験：筆記試験（70％） 技術試験（30％）			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア			

分野	専門分野	授業 科目名	共通基本技術Ⅲ	
開始 年次	1 年 後期	単位数 時間数	1 単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
1. 看護過程の基盤となる考え方を学び、看護が取り扱うべき問題を判断し介入するための基礎的能力を養う。 2. 人々の健康を守るために必要な臨床判断の基礎的知識を学ぶ。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
12	1. 対象者の理解と看護実践の基礎となる看護過程の概念が理解できる。	1) 看護過程の概要	(1) 看護過程とは (2) 看護過程を展開する際に基盤となる考え方 (3) 看護理論と看護過程のつながり ①ヘンダーソンの看護理論	講義 演習
		2) 看護過程の実際	(1) アセスメント ①情報収集と解釈・分析 (2) 看護問題の明確化(看護診断) ①看護問題・共同問題 ②問題の統合 ③問題の優先順位 (3) 看護計画の立案 ①看護目標 ②観察計画・援助計画・教育計画 (4) 実施 (5) 評価	講義
		3) 看護診断とは	(1) 看護診断の概要	講義
		4) 看護記録と報告	(1) 看護記録の概要 (2) 報告の目的と方法	講義
		5) 臨床判断の実際	(1) 臨床判断のプロセス ①気づき ②解釈 ③反応 ④リフレクション	講義
17	2. 看護上の問題を解決するための系統的思考プロセスの実際が理解できる。	1) 事例展開	(1) 看護理論を活用した事例展開 ①肺炎事例 ②肝がん事例	演習
1	単位認定試験：筆記試験（50％） 演習課題（50％）			
テキスト				
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア 臨床検査データブック（コンパクト版） 医学書院 治療薬マニュアル 医学書院				

分野	専門分野	授業 科目名	日常生活援助技術Ⅰ	
開始 年次	1 年 前期	単位数 時間数	1 単位 15時間	
授業の目的及びねらい				
活動・運動と休息・睡眠について理解し、運動と休息の看護について実践するための基礎的能力を養う。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
9	1. 活動・運動を支援する技術が理解できる	1) 活動・運動とは 2) ボディメカニクス 3) 安楽な体位・体位変換 4) 移動と移送	(1) 活動・運動の意義 (2) 活動・運動に影響する要因 (3) 日常生活動作・手段的日常生活動作活動・運動のアセスメント (1) ボディメカニクスとは (2) 適切なボディメカニクス (1) 体位の種類・特徴 (2) 安楽な体位・姿勢のための援助 (3) 皮膚への圧力を軽減するための援助 褥瘡予防のための援助 (4) 筋力維持・筋力増強・関節拘縮予防の援助 《安楽な体位の保持 体位変換》 (1) 移動・移送の援助 《車椅子・ストレッチャーへの移乗、移送》	講義 実技演習 実技演習
5	2. 休息・睡眠の援助が理解できる	1) 休息・睡眠とは 2) 休息・睡眠の援助 3) リラクゼーションを促す援助	(1) 休息・睡眠の意義 (2) 休息・睡眠を阻害する要因 (3) 睡眠障害の援助 (1) 休息・睡眠を促す援助 (1) タッチング・マッサージ 呼吸法・筋弛緩法・指圧 (2) 電法の援助	講義
1	単位認定試験：筆記試験			
テキスト				
系統看護学講座 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア				

分野	専門分野	授業 科目名	日常生活援助技術Ⅱ	
開始 年次	1 年 前期	単位数 時間数	1 単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
清潔と衣生活について理解し、清潔と衣生活の看護について実践するための基礎的能力を養う。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
29	1. 清潔の意義を理解し、清潔に関する技術が習得できる	1) 身体の清潔	(1) 清潔の意義 (2) 清潔に影響する要因 (3) 清潔のアセスメント ①皮膚と清潔 ②援助の適応のアセスメント ③スキンケアの基本 ④援助方法の選択のためのアセスメント	講義
		2) 清潔の援助の実際	(1) 自立困難な人への清潔の実施 《入浴・シャワー浴の介助》 《陰部の保清》 《清拭》 《洗髪》 《足浴》 《手浴》	実技演習
	2. 衣生活の意義を理解し、衣生活に関する技術が習得できる	1) 衣生活	(1) 衣生活の意義 (2) 衣生活の影響する要因 (3) 衣生活のアセスメント ①被服気候 ②寝衣や履物の選択	講義
		2) 衣生活の援助の実際	(1) 自立困難な人への寝衣交換の実施 《寝衣交換》	実技演習
1	単位認定試験：筆記試験			
テキスト				
系統看護学講座 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア				

分野	専門分野	授業 科目名	日常生活援助技術Ⅲ		
開始 年次	1 年 後期	単位数 時間数	1 単位 30時間		
授業の目的及びねらい					
食事と排泄の意義を理解し、食事と排泄に対する看護を実践するための基礎的能力を養う。					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
29	1. 食事と栄養の意義 を理解し、食事に関 する技術が習得で きる	1) 食事と栄養	(1) 食事と栄養の意義 (2) 食事と栄養に影響する要因 (3) 食事と栄養のアセスメント	講義	
		2) 食事（経口栄養）の援助	(1) 食事摂取の自立困難な人への援助 ＜食事介助（嚥下障害のある患者を除く）、食事指導＞	演習	
		3) 経管栄養の援助	(1) 経管栄養の種類と援助 ①経腸栄養剤の種類と留意点 ②経管栄養の援助の実際 ＜経管栄養法による流動食の注入＞ ＜経鼻胃チューブの挿入中の看護＞	演習	
		4) 経静脈栄養法(高カロリー輸液、中心静脈栄養)	(1) 経静脈栄養法（高カロリー輸液、中心静脈栄養）の種類	講義	
	2. 排泄の意義を理解 し、排泄に関する 技術が習得できる	1) 排泄	(1) 排泄の意義 (2) 排泄に影響する要因 (3) 排泄のアセスメント	講義	
		2) 排泄の援助の実際	(1) 自然な排泄を促す援助 (2) トイレ・ポータブルトイレでの排泄の援助 ＜ポータブルトイレでの排泄＞ (3) 床上での排泄の援助 《尿器での排尿、差し込み便器での排便》 (4) 自然な排泄が困難な人への援助 《導尿または膀胱留置カテーテルの挿入》 《浣腸》 (5) 尿失禁・便失禁がある人への援助 《おむつ交換》	講義	
					演習
					実技演習
				実技演習	
			演習		
				実技演習	
1	単位認定試験：筆記試験				
テキスト					
系統看護学講座 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア					

分野	専門分野	授業 科目名	診療に伴う技術	
開始 年次	1 年 後期	単位数 時間数	2 単位 45時間	
授業の目的及びねらい				
1. 診察、検査、与薬における看護師の役割を学び、看護を実践するための基礎的能力を養う。 2. 様々な治療の概要を理解し、治療を受ける対象者への看護を実践するための基礎的能力を養う。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
8	1. 診療における看護の 役割が理解できる。	1) 診療における看護 2) 診察時の看護 3) 検査時の看護	(1) 診療における看護の意義 (1) 診察時の看護の役割 (2) 診察の準備と介助 (3) 診察を受ける対象者への援助 (1) 検査における看護師の役割 (2) 安全で正確な検査のための 援助と観察 (3) 採血の方法と実際 《採血》	講義 実技演習
13	2. 与薬の方法に応じた 看護が習得できる。	1) 薬物療法と薬物管理 2) 与薬時の看護 3) 与薬の実際	(1) 薬物療法の意義と薬物管理 の原則 (1) 与薬の基本 (2) 与薬の種類と看護 ・経口与薬、口腔内与薬 ・直腸内与薬（坐薬） 《直腸内与薬》 ・経皮的与薬 ・点眼・点鼻・点耳 ・吸入 〈超音波ネブライザー〉 ・注射（皮内・皮下・筋肉・ 静脈内） 《皮下注射・筋肉注射》	講義 実技演習
19	3. 様々な治療方法と それを受ける対象 者への看護を理解 し、必要な看護技 術が習得できる。	1) 輸液療法を受ける対象 者への看護	(1) 輸液療法とは (2) 輸液療法を受ける対象者へ の看護 (3) 輸液療法の実際 《点滴静脈内注射》 《輸液療法を受ける対象者の 寝衣交換》 (4) 輸血管理	講義 実技演習

時間	目標	主題	内容	指導方法
4	4. 医療機器の原理と取り扱い方を理解し、操作の実際がわかる	2) 放射線療法を受ける対象者への看護	(1) 放射線療法とは (2) 放射線療法が対象者に及ぼす影響 (3) 放射線療法を受ける対象者への看護	講義
		3) 化学療法を受ける対象者への看護	(1) 化学療法とは (2) 化学療法が対象者に及ぼす影響 (3) 化学療法を受ける対象者への看護	講義
		4) 酸素療法を受ける対象者への看護	(1) 酸素吸入の適応と方法 (2) 非侵襲的陽圧換気 (3) 酸素吸入の実際 《酸素ボンベ》 《酸素療法》	講義 実技演習
		1) 医療機器使用時の看護	(1) 医療機器の原理 ・ME機器とは ・ME機器使用のための基礎知識 ・ME機器取り扱い上の留意事項 (2) ME機器使用時の看護 (3) 医療機器の取り扱い方と操作の実際 ・心電計、 ベッドサイドモニター ・輸液ポンプ、 シリンジポンプ ・人工呼吸器	講義 実技演習
1	単位認定試験：筆記試験（70％） 技術試験（30％）			
テキスト				
系統看護学講座 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 系統看護学講座 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 医学書院				

分野	専門分野	授業 科目名	フィジカルアセスメント	
開始 年次	2 年 前期	単位数 時間数	1 単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
対象者の健康状態を的確に把握するために必要なフィジカルアセスメントに関する基本的な知識と技術を習得する。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
29	1. フィジカルアセスメントの意義がわかる	1) フィジカルアセスメント	(1) ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの概念 (2) フィジカルアセスメントの目的	講義
	2. フィジカルアセスメントの基本技術がわかる	1) フィジカルイグザミネーション	(1) 問診、視診、触診、打診、聴診	講義
	3. 系統別のフィジカルアセスメントが根拠に基づいて実施できる	1) 呼吸器系のアセスメント	(1) 胸郭と肺のアセスメント (2) 呼吸音のアセスメント	講義
		2) 腹部のアセスメント	(1) 腹部全体のアセスメント ＜腹水のアセスメント＞	
3) 循環器系のアセスメント		(1) 頸部のアセスメント (2) 胸部のアセスメント (3) 末梢循環系のアセスメント ＜浮腫のアセスメント＞		
		4) 脳・神経系のアセスメント 筋・骨格系のアセスメント	(1) 意識のアセスメント (2) 脳神経のアセスメント (3) 運動機能のアセスメント (4) 反射のアセスメント (5) 感覚機能のアセスメント	実技演習
		5) フィジカルアセスメントが根拠に基づいて実施できる。	《呼吸音の聴取》 《心音の聴取》 《腸蠕動音の聴取》 《瞳孔・対光反射の観察》 《関節可動域の測定》 《膝蓋腱反射の観察》	
	4. 事例において知識・技術を活用したフィジカルアセスメントができる	1) 症状・徴候からのアセスメント	《事例の状態から必要な観察、フィジカルアセスメント、緊急性の判断、リフレクション》	
1	単位認定試験：筆記試験			
テキスト				
系統看護学講座 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア				

分野	専門分野	授業 科目名	臨床看護総論	
開始 年次	1 年 後期	単位数 時間数	1 単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
1. 病期の考え方について学ぶ。 2. 主要症状の特徴を理解し、症状緩和に向けた看護について理解できる。 3. 1. 2. を統合して、事例患者の状況に対し優先すべき対応を判断し実践できる。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
18	1. 健康状態の経過に基づく看護が理解できる。	1) 健康障害を持つ対象者への看護 2) 急性期の対象者の看護 3) 回復期の対象者の看護 4) 慢性期の対象者の看護 5) 終末期の対象者の看護	(1) 健康状態の経過 (2) 病期の特徴 (1) 急性期とは (2) 急性期治療の特徴 (3) 急性期対象者のニーズ (4) 急性期にある対象者への援助 (5) 急性期にある患者の家族への援助 (1) 回復期とは (2) 回復期看護の基本 (1) 慢性期・慢性疾患とは (2) 慢性期治療・看護の特徴 (3) 慢性の経過をたどる対象者への援助 (4) 家族への援助 (1) 終末期とは (2) 終末期医療・看護の特徴 (3) 終末期対象者のニーズ (4) 全人的援助 (5) 家族の援助 (6) 終末期を生きるということ (7) 死へのプロセス	講義
	2. 主要な症状を示す対象者の看護が理解できる。	1) 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 2) 循環に関連する症状を示す対象者への看護	(1) 呼吸機能障害に関連する代表的な症状と発症のメカニズム (2) 呼吸機能障害に関連する看護上のアセスメント (3) 呼吸機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護 (1) 循環障害に関連する代表的な症状と発症のメカニズム (2) 循環障害に関連する看護上のアセスメント (3) 循環障害に関連するニーズ充足に向けた看護	

時間	目標	主題	内容	指導方法
11	1. 対象者の状況に応じた援助が実践できる。	3) 栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護	(1) 栄養障害や代謝障害に関連する代表的な症状と発症のメカニズム (2) 栄養・代謝障害に関連する看護上のアセスメント (3) 栄養・代謝障害に関連するニーズ充足に向けた看護	演習
		4) 排泄に関連する症状を示す対象者への看護	(1) 排泄機能障害に関連する代表的な症状と発症のメカニズム (2) 排泄機能障害に関連する看護上のアセスメント (3) 排泄機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護	
		5) 認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護	(4) 認知や知覚の障害に関連する代表的な症状と発症のメカニズム (5) 認知や知覚に関連する看護上のアセスメント (6) 認知や感覚の障害に関連するニーズ充足に向けた看護	
11	1. 対象者の状況に応じた援助が実践できる。	1) 健康状態の経過に応じた看護を考えることができる 2) 対象者の健康状態の経過に応じ、その場で必要な援助が実践できる	(1) 対象者の健康状態の経過に応じた看護（援助）の検討 (1) 援助の実施 (2) リフレクション	演習
1	終講試験：筆記試験（70％） 演習課題（30％）			
テキスト				
系統看護学講座 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 医学書院 看護がみえる vol.5 対象の理解 I				

分野	専門分野	授業 科目名	看護探究Ⅰ	
開始 年次	1 年 前期	単位数 時間数	1 単位 15時間	
授業の目的及びねらい				
疑問や気づきをもち、思考力を育みつつ看護とは何かを追究する姿勢をもつ				
時間	目標	主題	内容	指導方法
6	1. 看護実践のための理論について理解できる	1) 看護理論の変遷と看護理論	(1) 看護理論とは (看護理論の分析) (2) 様々な看護理論を通して、看護とは何かについて考える ・ ナイチンゲール ・ ヘンダーソン ・ オレム ・ ウィーデンバック ・ トラベルビー ・ ロイ ・ ベナー など	講義 演習
8	2. 看護にまつわる疑問に気づき、根拠をもって説明できる	1) 気づきの明確化 2) 根拠の探究	(1) リフレクション (2) 文献の検索・活用 (3) 書籍や電子媒体を活用して情報の整理をしながら、課題に対して取り組む	講義 演習
1	単位認定試験：筆記試験（40%）、演習課題（60%）			
テキスト				

分野	専門分野	授業 科目名	看護探究Ⅱ	
開始 年次	2年 前・後期	単位数 時間数	1単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
看護実践のための理論的根拠に基づき、看護とは何かを探究し、今後の看護実践につなげる				
時間	目標	主題	内容	指導方法
30	1. 看護研究の意義が理解できる	1) 看護研究の基本 2) 看護研究の進め方	(1) 看護研究とは何か (2) 看護における研究の意義 (3) 看護研究の種類 (1) 一般的な研究の手順 (2) 文献の活用方法 (3) 研究計画書の作り方 ・テーマ・目的の設定 ・情報の収集・整理・分析・結論 (4) 看護研究のまとめ方	講義
	2. ケースレポートをまとめることができる	1) ケースレポートの実際	(1) 実施した看護実践をケースレポートとしてまとめる	演習
	3. 看護について自己の考えを深め、今後の看護実践につなげる	1) 事例の情報の集約 2) 根拠を明確化 3) プレゼンテーション	(1) 看護実践に必要な情報の整理とその根拠について考察 (2) 伝わるプレゼンテーション (3) リフレクション 今後どのように看護を実践していくか、まで考える (4) 自己の看護観の整理	演習
1	単位認定試験：ケースレポート			
テキスト				
系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院				

分野	専門分野	授業 科目名	地域・在宅看護概論Ⅰ	
開始 年次	1 年 前期	単位数 時間数	1 単位 15時間	
授業の目的及びねらい				
地域・在宅看護の対象と看護の基盤となる概念を学ぶ。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
2	1. 地域・在宅看護の 基盤となる考え方 について理解でき る	1) 人々の暮らしの理解 2) 地域・在宅看護の役割	(1) 暮らしとは (1) 地域・在宅看護の基盤とな る考え方 (2) 地域・在宅看護に求められ る役割	講義
2	2. 人々の健康と暮ら しを支える仕組み について理解でき る	1) 暮らしと地域 2) 暮らしと地域を理解す るための考え方 3) 地域包括ケアシステム の概念	(1) 地域の定義 (2) 人々の暮らす地域の多様性 (1) システム理論 (2) システム思考 (1) 地域包括ケアシステム ①目的と考え方 ②構成要素 ③自助・互助・共助・公助	講義
6	3. 地域・在宅看護の 対象について理解 できる	1) 地域・在宅看護の対象者 2) 家族の理解	(1) 地域による多様性 (2) ライフステージによる多様性 (3) 健康レベルの多様性 (1) わが国における家族の現状 (2) わが国における家族とその変遷 ①家族の定義 ②家族の機能 (3) 地域・在宅看護の対象とし ての家族 ①家族システム論 ②家族発達論	講義 演習
4	4. 地域・在宅看護実 践の場と看護の役 割について理解で きる	1) おもな地域・在宅看護 実践の場と看護	(1) 住まいで提供される看護 (2) 通所サービスの場で提供さ れる看護 (3) 短期入所サービスの場で提 供される看護 (4) 通所・短期入所・訪問サー ビスの場で提供される看護 (5) 施設サービスの場で提供さ れる看護 (6) 医療機関で提供される看護 (7) 地域の中で提供される看護	講義 演習
1	単位認定試験：筆記試験			
テキスト				
基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社 系統看護学講座 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア				

分野	専門分野	授業 科目名	地域・在宅看護概論Ⅱ	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
地域・在宅看護の実践に必要な法制度や、安全と健康危機管理について学ぶ。 地域・在宅看護における看護の役割について学ぶ。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
6	1. 地域・在宅看護実践における多職種連携・協働について理解できる	1) 地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働 2) 医療・福祉・介護関係者との連携・協働 3) 医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働	(1) 看護師が連携・協働において果たす役割 (2) 多職種チームでかかわる意義 (3) 地域・在宅看護実践における多職種チーム (1) 地域共生社会の実現に向けた連携・協働 (2) 地域・在宅看護の現場における連携・協働 (1) 地域資源の可視化 (2) 地域資源の開発システム (3) インフォーマルな資源とフォーマルな資源の連携・協働	講義
6	2. 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用について理解できる	1) 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制 2) 訪問看護の制度 3) 障害者・難病に関する法制度 4) 権利保障に関連する制度	(1) 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制 (1) 訪問看護制度の歩み (2) 訪問看護の対象者の特徴 (3) 訪問看護の利用者と訪問回数 (4) 訪問看護ステーションに関する規定 (5) 訪問看護の利用までの手順 (6) 訪問看護の費用 (7) 訪問看護サービスの提供 (8) ケアマネジメントと社会資源の活用 (1) 障害者総合支援法 (2) 難病法 (1) 対象者の権利擁護 (2) 虐待防止に関する法律 (3) 守秘義務 (4) 個人情報保護 (5) サービス提供者の権利保護	講義 講義
8	3. 地域での暮らしにおけるリスクを理解し、安全をまもる看護について理解できる	1) 地域での暮らしにおけるリスク	(1) 暮らしにおけるリスク (2) 暮らしにおけるリスクの種類 (3) できる限り安全に暮らしつづけるための援助	講義 演習

時間	目標	主題	内容	指導方法
9	4. 地域・在宅での暮らしを支える看護について理解できる	2) 地域・在宅看護における安全をまもる看護 3) 地域での暮らしにおける災害対策 1) 暮らしの場で看護をするための心構え 2) セルフケアを支える対話・コミュニケーション 3) 地域・在宅看護における家族を支える看護	(1) 療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策 (2) 地域・在宅看護実践におけるリスクマネジメント (3) 地域・在宅看護における看護師への暴力・ハラスメント (1) 暮らしと災害 (2) 地域・在宅看護と災害対策 (1) 地域・在宅看護実践とは (2) 地域・在宅看護実践に欠かさない要素 (1) 対象者と看護師のパートナーシップ (2) 対象者と看護師の対話・コミュニケーション (1) 家族のアセスメントのポイント (2) 家族の支援	講義 演習
1	単位認定試験：筆記試験			
テキスト		系統看護学講座 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践 医学書院 看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア 基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社		

分野	専門分野	授業 科目名	地域・在宅看護援助論Ⅰ	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
地域における暮らしを支える看護実践について学ぶ。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
2	1. 地域における暮らしを支える看護実践について理解できる。	1) 療養環境調整に関する地域・在宅看護技術	(1) 地域・在宅看護における療養環境調整 (2) 療養環境のアセスメント (3) 療養環境調整の実際	講義 演習
2		2) 活動・休息に関する地域・在宅看護技術	(1) 暮らしにおける活動・休息とその援助 (2) 活動に関する地域・在宅看護技術 (3) 休息に関する地域・在宅看護技術	
4		3) 食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術	(1) 在宅での食生活の特徴 (2) 食生活・嚥下に関するアセスメント (3) 経口摂取の援助 (4) 経管栄養法を受ける療養者の援助 (5) 在宅中心静脈栄養法（HPN）を受ける療養者の援助	
4		4) 排泄に関する地域・在宅看護技術	(1) 暮らしにおける排泄とその援助 (2) 排泄のアセスメント (3) 援助の実際 ①失禁の援助、便秘のケア ②尿道留置カテーテルの管理とケア ③ストーマの管理とケア ④腹膜透析の管理とケア	
2		5) 清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術	(1) 暮らしにおける清潔・衣生活とその援助 (2) 清潔・衣生活におけるアセスメント (3) 在宅における清潔・衣生活の援助の実際	

時間	目標	主題	内容	指導方法
2		6) 苦痛の緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術	(1) 暮らしにおける苦痛と安楽への援助 (2) 苦痛と安楽のアセスメント (3) 苦痛と安楽に関する援助の方法・アセスメント	
5		7) 呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術	(1) 暮らしにおける呼吸・循環とその援助 (2) 呼吸のアセスメント (3) 循環のアセスメント (4) 援助の方法 (5) 呼吸・循環における医療管理レベルの高い療養者の援助 ①在宅酸素療法（HOT） ②在宅人工呼吸療法（HNV）	
4		8) 創傷管理に関する地域・在宅看護技術	(1) テープ類による皮膚トラブルの予防とケア (2) 褥瘡の予防とケア (3) スキンケアの予防とケア	
4		9) 与薬に関する地域・在宅看護技術	(1) 地域・在宅における与薬 (2) アセスメントのポイント (3) 与薬方法ごとのアセスメント (4) 化学療法・放射線療法への援助 (5) インスリン療法への援助	
1	単位認定試験：筆記試験			
テキスト				
系統看護学講座 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践 医学書院 知識が身につく！実践できる！よくわかる在宅看護 学研				

分野	専門分野	授業 科目名	地域・在宅看護援助論Ⅱ	
開始 年次	2 年 後期	単位数 時間数	1 単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
地域・在宅看護における時期別の看護と、看護を実践するための基礎的知識を学ぶ。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
14	1. 地域・在宅における時期別の看護について理解できる	1) 在宅療養移行期の看護 2) 在宅療養安定期の看護 3) 急性増悪期の看護 4) 終末期の看護（グリーフケアを含む） 5) 在宅療養終了期の看護 6) 精神疾患への看護	(1) 在宅療養移行期とは (2) 在宅療養移行期のおもな看護目標 (3) 在宅療養移行期のおもな看護計画 (1) 在宅療養安定期とは (2) 在宅療養安定期のおもな看護目標 (3) 在宅療養安定期のおもな看護計画 (1) 急性増悪期とは (2) 急性増悪期のおもな看護目標 (3) 急性増悪期のおもな看護計画 (1) 終末期とは (2) 終末期のおもな看護目標 (3) 終末期のおもな看護計画 (1) 在宅療養終了期とは (2) 在宅療養終了期の看護 (1) 精神科訪問看護の実際	講義
15	2. 地域・在宅看護の展開方法が理解できる	1) 地域・在宅看護における看護過程 2) 地域・在宅看護過程の展開方法 3) 地域・在宅看護における臨床判断の実際	(1) 看護過程とその意義 (2) 地域・在宅看護における看護過程の基本 (3) 地域・在宅看護における看護過程の展開 (4) 地域・在宅看護過程の特徴 (1) 地域・在宅看護過程における情報収集とアセスメント (2) 地域・在宅看護過程における看護目標の設定・計画の立案 (3) 地域・在宅看護の実施 (1) 地域・在宅看護の評価	講義 演習
1	単位認定試験：筆記試験			
テキスト				
系統看護学講座 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践 医学書院 知識が身につく！実践できる！ よくわかる在宅看護 学研				

分野	専門分野	授業 科目名	草津市の看護Ⅰ	
開始 年次	1 年 前期	単位数 時間数	1 単位 15時間	
授業の目的及びねらい				
1. 地域で生活する人々の暮らしについて理解し、その実際に触れることで暮らしが健康に与える影響を学ぶ。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
1 2	1. 草津市で生活する人々の「健幸づくり」につながる暮らしについて理解できる。	1) 草津市で暮らす人々と生活環境を知る	1) 草津市の概要 (1) 地域住民の特徴の理解 (2) 生活環境の理解 2) 「健康創造都市草津」の概要 (1) 全世代共通の健幸づくり (2) 世代ごとの健幸づくり (3) 支え合いのまちづくり (4) 行動変容につながるまちづくり	講義 特別講義
8	2. 暮らしが「健幸」に与える影響を理解できる。	2) 草津市の生活環境が健幸に与える影響について考える	1) 生活環境が人々の健幸に与える影響 (1) 地域での暮らしにおけるリスクと対策	演習 フィールド ワーク
3				演習発表
1	単位認定試験：課題評価、レポート			
テキスト				
基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社 系統看護学講座 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア				

分野	専門分野	授業 科目名	草津市の看護Ⅱ	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	
授業の目的及びねらい				
1. 健康レベルの高い対象の健幸に関する課題を明確にし、自助の支援につながる看護が実践できる。 2. 自助の力を付けるための健康支援方法について学ぶ。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
5	1. 健幸に関する現状と課題について調べ理解できる。	1) 健康に対する意識や生活の実際を理解	(1) 看護師が健康な対象と関わることの意義 (2) 統計データの収集と理解 ①対象者が暮らす市町村（滋賀県）のデータ把握 ②国のデータ把握 (3) 対象者が暮らす市町村（滋賀県）が行っている取り組みの実際を理解 (4) インタビューの実施 ①健康に対する意識 ②生活の実際	講義 演習 フィールドワーク
6	2. 健康レベルの高い対象へ自助の支援（予防行動）につながる看護の実践ができる。	1) 健康レベルの高い対象への自助の支援（予防行動）につながる看護の計画と実施	(1) 「健幸教室」実施に向けての計画立案 (2) 「健幸教室」リハーサル (3) 「健幸教室」の実施 (4) リフレクション	演習 フィールドワーク
4	3. 健幸に関する課題への取り組みの必要性和その意味について理解できる。	1) 「健幸教室」実施後の評価と学びへの意味づけ	(1) 「健幸教室」実施の振り返りと評価 (2) 学びへの意味づけ	演習
1	単位認定試験：課題評価、レポート			
テキスト				
基礎からわかる 地域・在宅看護論 照林社				

分野	専門分野	授業科目名	成人看護学概論	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1 単位 15時間	
授業の目的及びねらい				
1. 成人期の生活と健康について理解できる 2. 成人各期の健康の保持・増進や疾病の予防について基本的な知識が理解できる 3. がん患者と家族への看護を実践するための基本的な知識が理解できる				
時間	目標	主題	内容	指導方法
14	1. 成人の特徴と生活が理解できる 2. 成人期における健康の保持・増進や疾病の予防について理解できる 3. がん患者と家族への看護を理解する	1) 成人期の発達課題の特徴 2) 成人をとりまく環境 1) 生活習慣に関連する健康課題 2) 職業に関連する健康課題 3) ストレスに関連する健康課題 1) AYA世代におけるがん看護	(1) 成人の定義 青年期・壮年期・向老期の身体的・心理・社会的特徴 (2) ライフサイクルからみた成人期 (3) 社会との相互作用からみた成人期 家族形態と機能 生活様式 (1) 社会状況の変化 家族をめぐる状況 仕事をめぐる状況 日常生活スタイルの変化 環境問題の深刻化 死生観の変容 (1) 生活習慣病の要因 (2) 健康問題の現状と推移 (3) 生活習慣の是正 (1) 就労条件・環境と疾病との関係 (2) 職業性疾患の要因と健康診断の受診行動 (1) ストレス関連疾患の要因 (2) ストレス対処行動 (1) AYA世代の特徴 (2) がん患者と家族の抱える苦悩と生活上の困難 (3) がんと共生と社会参加への支援 (就労条件・環境調整、社会参加を促す要因と阻害因子)	講義
1	単位認定試験：筆記試験			
テキスト				
系統看護学講座 成人看護学〔1〕 成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア				

分野	専門分野	授業 科目名	成人看護学援助論Ⅰ	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
1. 呼吸機能障害のある対象者の看護が理解できる 2. 循環機能障害のある対象者の看護が理解できる 3. 呼吸・循環機能障害のある周手術期の対象者の看護が理解できる				
時間	目標	主題	内容	指導方法
8	1. 循環機能障害のある対象者の看護が理解できる	1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける患者への看護 3) 治療を受ける患者への看護 4) 病期や機能障害に応じた看護	(1) 主要症状に対する看護 (胸痛、動悸、浮腫、呼吸困難、チアノーゼ、失神、四肢の疼痛) (1) 心電図、心血管超音波、血管造影、心臓カテーテル (1) 経皮的冠動脈形成術 (PCI) (2) 冠動脈バイパス術 (CABG) (3) 弁置換術・弁形成術 (4) 大動脈内バルーンパンピング (IABP) (5) ペースメーカー (6) 植え込み型除細動器 (7) 血栓溶解療法・血栓除去術 (1) 心不全 (2) 虚血性心疾患 (3) 弁膜症 (4) 不整脈 (5) 閉塞性動脈硬化症 (下肢動脈塞栓症)	講義
8	2. 呼吸機能障害のある対象者の看護が理解できる	1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける患者への看護 3) 治療を受ける患者への看護 4) 病期や機能障害に応じた看護	(1) 主要症状に対する看護 (咳嗽・喀痰、血痰・喀血、胸痛、呼吸困難、チアノーゼ) (1) 動脈血血液ガス分析、呼吸機能検査、気管支鏡検査、胸腔穿刺、肺生検 (1) 酸素療法、非侵襲的陽圧換気、侵襲的陽圧換気、肺切除術、吸入による薬物療法、薬物療法 (1) 肺癌、中皮腫 (2) 肺炎、気管支炎、胸膜炎 (3) 慢性閉塞性肺疾患 (copd) (4) 気管支喘息	講義

時間	目標	主題	内容	指導方法
13		5) 肺癌の周手術期における対象者の看護	(1) 周手術期における対象者の看護（周手術期の事例展開） ・標準看護計画 ・呼吸を整える援助 体位ドレナージ 《口腔内・鼻腔内吸引》 《気管内吸引》 ・〈低圧持続吸引〉 ・〈創傷処置〉 ・〈ネブライザー吸入〉	演習 実技演習
1	単位認定試験：筆記試験（75％） 演習課題（25％）			
テキスト				
系統看護学講座 成人看護学〔2〕 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔3〕 循環器 医学書院 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院				

分野	専門分野	授業 科目名	成人看護学援助論Ⅱ	
開始 年次	2 年 後期	単位数 時間数	1 単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
1. 内部環境（体液量、電解質、酸塩基平衡）調節機能障害、排尿機能障害、代謝障害・内分泌機能障害がある対象者への看護が理解できる 2. 生活習慣をセルフマネジメントする為に、患者教育を実践するための基本的な知識が理解できる				
時間	目標	主題	内容	指導方法
29	1. 排尿機能障害、内部環境（体液量、電解質、酸塩基平衡）調節機能障害のある対象者の看護を理解する 2. 内部環境調節（血糖）機能障害、代謝・内分泌機能障害のある対象者の看護を理解する	1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける患者への看護 3) 治療を受ける患者への看護 4) 病期や機能障害に応じた看護 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける患者への看護 3) 治療を受ける患者への看護 4) 病期や機能障害に応じた看護	(1) 主要症状に対する看護（畜尿・排尿障害、体液量調整機能障害・酸塩基平衡調整機能障害：腎性浮腫、腎性高血圧） (1) 尿流動態検査、残尿検査、膀胱鏡 (2) 静脈性尿路造影、腎生検 (1) 膀胱切除術、前立腺切除術、ホルモン療法 (2) 食事療法、急性期持続血液濾過透析、血液検査、腹膜検査、腎移植 (1) 腎・尿路結石 (2) 腎癌、膀胱腫瘍 (3) 前立腺肥大 (4) 急性腎不全、慢性腎不全、慢性腎臓病 (5) 腎移植術後 (1) 主要症状に対する看護（高血糖・低血糖、代謝機障害、甲状腺機能障害、副腎機能障害、下垂体機能障害） (1) 糖負荷試験、自己血糖測定 (2) ホルモン血中・尿中濃度測定、ホルモン負荷試験 (1) インスリン補充療法、糖尿病経口薬による治療、食事療法・運動療法 (2) 甲状腺ホルモン療法、甲状腺切除術 (1) 1型糖尿病、2型糖尿病 (2) 甲状腺機能亢進症・低下症 (3) 高尿酸血症、脂質異常症、肥満のある対象者への看護	講義 演習
1	単位認定試験：筆記試験（80％） 演習課題（20％）			
テキスト				
系統看護学講座 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院				

分野	専門分野	授業 科目名	成人看護学援助論Ⅲ	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	
授業の目的及びねらい		運動機能障害のある対象者の看護が理解できる		
時間	目標	主題	内容	指導方法
14	1. 運動機能障害のある対象者への看護が理解できる	1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける患者への看護 3) 治療を受ける患者への看護 4) 病期や機能障害に応じた看護	(1) 姿勢機能障害、移動機能障害、作業機能障害 (2) 生命、生活への影響 (1) 関節可動域検査、徒手筋力テスト (2) 脊髄造影、椎間板造影 (3) 膝関節鏡 (4) 神経ブロック (1) ギプス固定 (2) 牽引法 (3) 人工関節置換術 (1) 関節リウマチ (2) 変形性関節症 (3) 椎間板ヘルニア (4) 四肢切断後 〈包帯法〉 (5) 骨折 (6) 脊髄損傷	講義 演習
1	単位認定試験：筆記試験			
テキスト				
系統別看護学講座 成人看護学〔10〕 運動器 医学書院 NICE成人看護学 リハビリテーション看護 南江堂				

分野	専門分野	授業 科目名	成人看護学援助論Ⅳ	
開始 年次	2 年 前期	単位数 時間数	1 単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
1. 栄養・代謝機能障害、消化・吸収機能障害、造血機能障害のある対象者の看護が理解できる 2. 終末期および緩和ケアを必要とする対象者・家族への看護を実践するための基本的な知識が理解できる				
時間	目標	主題	内容	指導方法
14	1. 栄養・代謝機能障害、消化・吸収機能障害のある対象者の看護を理解する	1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける患者への看護 3) 治療を受ける患者への看護 4) 病期や機能障害に応じた看護	(1) 主要症状に対する看護 (咀嚼・嚥下障害、消化管機能障害、膵液分泌障害、胆汁分泌障害、肝機能障害) (1) 上部消化管内視鏡、大腸内視鏡、内視鏡的逆行性胆管膵管造影、消化管造影、造影CT・MRI、直腸診 (2) 腹部超音波、肝生検、腹腔鏡 (1) 薬物療法 (2) 血管塞栓療法 (3) 手術療法 (4) ドレナージ術 (5) 栄養療法 (1) 肝炎・肝硬変・肝癌 (2) 舌癌、咽頭癌、喉頭癌 (3) 食道癌・胃癌 (4) 大腸癌、結腸癌 (5) 人工肛門増設後 (6) 潰瘍性大腸炎・クローン病 (7) 胆石症 (8) 膵炎	講義 演習
10	2. 身体防御機能障害（造血機能障害）ある対象者の看護を理解する	1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける患者への看護 3) 治療を受ける患者への看護 4) 病期や機能障害に応じた看護	(1) 主要症状に対する看護 (皮膚粘膜障害、免疫機能障害、骨髓機能障害) (1) 骨髓穿刺 (1) 免疫抑制薬 (2) ステロイド療法 (3) 造血幹細胞移植 (1) 血液悪性疾患（白血病、悪性リンパ腫）の病期に応じた対象者の看護	講義 演習
5	3. 終末期および緩和ケアを必要とする対象者への看護を理解する	1) 緩和ケアを必要とする患者と家族	(1) がん患者 (2) 慢性心不全患者 (3) 慢性呼吸不全患者 (4) 慢性疼痛がある患者	

時間	目標	主題	内容	指導方法
		2) エンドオブ・ライフ・ケア 3) 臨死期の看護	(1) 苦痛緩和と意思決定支援 (2) アドバンスケアプランニング (3) 家族ケア（予期悲嘆に対するアセスメントとケア） (1) 身体的・精神的ケア (2) 家族の悲嘆へのケア、代理意思決定支援	
1	単位認定試験：筆記試験（75％） 演習課題（25％）			
テキスト				
系統看護学講座		成人看護学〔5〕	消化器	医学書院
系統看護学講座		成人看護学〔4〕	血液・造血器	医学書院
系統看護学講座		別巻	緩和ケア	医学書院

分野	専門分野	授業 科目名	クリティカルケア看護学	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
クリティカルな状況にある成人期・老年期の対象者への看護が理解できる。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
10	1. クリティカルケアを必要とする対象に必要な看護について理解できる。	1) クリティカルケア看護とは 2) クリティカルな状況に陥りやすい疾患や治療	(1) クリティカルケア看護の特性 (2) クリティカルケアを必要とする対象の特徴 ・成人期の対象者とその家族 ・老年期の対象者とその家族 (3) クリティカルケアにおける看護の役割とチーム医療 (4) クリティカルケア看護と倫理 (1) 重篤な急性疾患 ・感染症など (2) 重篤な外因性の疾患 ・外傷、熱傷、中毒など (3) 慢性疾患の急性増悪 (4) 手術による過大侵襲	講義
19	2. 手術療法を受ける対象の看護について理解できる。	1) 手術療法とは 2) 周術期の対象者の看護	(1) 手術療法と麻酔 ・近年の手術の特徴 ・手術方法による影響 ・麻酔と主な合併症 (1) 周術期にある対象の特徴 ・成人期の対象者とその家族 ・老年期の対象者とその家族 (2) 術前の看護 ・術後合併症のリスクアセスメントと援助 ・意思決定への支援 ・心理面への援助 (3) 術中の看護 ・手術室看護師の役割 ・麻酔による看護 ・手術体位による影響 ・手術終了時の看護 (4) 術後の看護 ・生体反応と回復過程 ・術後日数に応じた合併症 ・合併症予防と観察 ・術後の疼痛管理 ・術後の機能障害や生活制限への看護（早期離床） (5) 術後の継続看護	
1	単位認定試験：筆記試験			
テキスト				
系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院				
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院				
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院				

分野	専門分野	授業 科目名	老年看護学概論Ⅰ	
開始 年次	1 年 後期	単位数 時間数	1 単位 15時間	
授業の目的及びねらい				
老年期を生きる人々の特徴や、健康と生活について理解できる。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
2	1. 老年期を生きる人々 の特徴が理解できる。	1) ライフサイクルにおけ る老年期	(1) 高齢者の定義 (2) 老年期の発達課題 (3) 加齢と老化 (4) 高齢者に関する統計	講義 演習
2 4 2		2) 加齢に伴う変化	《高齢者疑似体験》 (1) 加齢に伴う身体機能の変化 (2) 加齢に伴う精神機能の変化 (3) 加齢に伴う社会的機能の変化 (4) 身体・精神・社会面の相互 作用	
2		3) 超高齢化社会の統計的 輪郭	(1) 超高齢社会の現状 (2) 高齢者と家族 (3) 高齢者の健康状態 (4) 高齢者の死亡 (5) 高齢者の暮らし	
2	2. 高齢者の暮らしと 健康について理解 できる。	1) 高齢者にとっての健康	(1) 高齢者の健康の要因 (2) 高齢者の健康意識 (3) 高齢者の健康状態のアセス メント (4) 高齢者の健康の特徴	
		2) 高齢者の人生の質の保障	(1) サクセスフルエイジング (2) ノーマライゼーション (3) 自立支援とエンパワメント	
		3) 高齢者の多様性	(1) 高齢者のライフヒストリー (2) 生活史・価値観	
1	単位認定試験：筆記試験（80％） レポート（10％） 課題（10％）			
テキスト				
系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				

分野	専門分野	授業 科目名	老年看護学概論Ⅱ	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	
授業の目的及びねらい				
老年期を取り巻く社会における施策の現状と課題をふまえ、老年看護の果たす役割について理解できる。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
2	1. 高齢者をとりまく 社会保障制度が理 解できる。	1) 高齢者を取り巻く社会 保障制度	(1) 高齢者の療養生活と医療制度 (2) 高齢者の介護・福祉施策	講義
6	2. 老年看護の基本が 理解できる。	1) 老年看護の基本	(1) 老年看護の特徴 ①安全・安楽な生活の援助 ②健康保持増進と廃用症候 群の予防 ③疾病の治癒・回復の特徴 に応じた看護 ④個別の日常生活能力、目 標にあわせた看護 ⑤人生の統合をはかる看護 ⑥家族との協働 ⑦安全管理 ⑧多職種連携 ⑨地域包括ケアシステム (2) 老年看護に活用できる概念・ 理論	講義
4	3. 老年看護における 倫理的問題につい て自己の考えを明 確にできる。	1) 老年看護の倫理的問題 と権利擁護	(1) 高齢者差別 (2) 高齢者虐待 (3) 安全確保と身体拘束 (4) 高齢者の権利擁護 (5) 高齢者の意思決定 (6) 高齢社会を取り巻く施策の 現状と課題	講義 演習
2	4. 老年看護の目標と 役割が理解できる。	1) 老年看護の目標と役割	(1) 老年看護の目標 (2) 保健医療福祉制度の変化に 伴う看護の役割	講義
1	単位認定試験：筆記試験（85％） 課題（15％）			
テキスト				
系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 公衆衛生がみえる メディックメディア 看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア				

分野	専門分野	授業 科目名	老年看護学援助論Ⅰ	
開始 年次	2 年 前期	単位数 時間数	1 単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
老年期の特徴を理解し、生活を整えるための看護を理解する。また、老年期に多い疾患に対する治療を受ける高齢者の看護が理解できる。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
10	1. 高齢者の生活を支える看護が理解できる。	1) 高齢者の生活アセスメント 2) 活動と休息 3) コミュニケーション 4) 歩行・移動・姿勢保持 5) 清潔・衣生活（身だしなみ） 6) 食生活 7) 排泄	(1) 国際生活機能分類「ICF」 (2) 総合機能評価「CGA」 (3) 基本的日常生活動作「ADL」と手段的日常生活動作「IADL」 (1) 活動と休息のアセスメントと生活リズムの調整 (1) コミュニケーション能力と阻害する要因のアセスメント (2) コミュニケーションの方法 (1) 歩行・移動・姿勢保持のアセスメントと援助の方法 (2) 転倒の影響、要因、予防 (1) 清潔行為と更衣動作のアセスメントと援助の方法 (1) 食生活のアセスメント (2) 嚥下能力、嗜好性、環境をふまえた援助 (1) 排泄のアセスメントと排泄能力に応じたケア用具を用いた援助	講義
4	2. 褥瘡のある高齢者の看護が理解できる。	1) 褥瘡発生の要因と褥瘡のアセスメント、予防ケア 2) 褥瘡に対する治療処置	(1) 高齢者に起こりやすいスキントラブル (2) 痒みと皮膚のアセスメント (3) 褥瘡のアセスメントと予防ケア (1) 重症の褥瘡に対する治療処置	講義 演習
9	3. 認知症のある高齢者の看護が理解できる。	1) 認知症のある人への看護	(1) 加齢による認知症の病態と要因 (2) コミュニケーションの方法 (3) 行動・心理症状と生活への影響 (4) 認知症の治療と援助・予防 (5) 認知症の療法的アプローチ (6) 認知症高齢者の家族への支援とサポートシステム	
6	4. 高齢者の終末期における看護が理解できる。	1) 終末期の看護	(1) 終末期の捉え方 (2) 身体特徴のアセスメント (3) 苦痛の緩和と安楽 (4) 家族への援助	講義
1	単位認定試験：筆記試験			
テキスト				
系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院				

分野	専門分野	授業 科目名	老年看護学援助論Ⅱ	
開始 年次	2 年 前期	単位数 時間数	1 単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
老年期における特徴的な疾患、加齢変化に伴う症状や障害について理解できる。また、その看護や予防について理解できる				
時間	目標	主題	内容	指導方法
12	1. 高齢者特徴的な症候・疾患・障害と看護が理解できる。	1) 高齢者に特徴的な症候と疾患	(1) 視覚障害、聴覚障害 (2) 摂食・嚥下障害、低栄養、脱水症 (3) 睡眠障害、せん妄 (4) うつ病 (5) パーキンソン症候群 (6) 感染症 (7) 廃用症候群	講義 演習
2	2. 治療を受ける高齢者への看護が理解できる。	1) 薬物治療の看護	(1) 加齢に伴う薬物動態の変化 (2) 服薬管理とリスクマネジメント (3) 薬物療法を受ける高齢者への看護	
15	3. 脳・神経機能障害のある対象者の看護が理解できる。	1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける患者への看護 3) 治療を受ける患者への看護	(1) 主要症状に対する看護 ①生命維持活動調節機能障害（意識障害・頭蓋内圧亢進症状） ②運動・感覚機能障害（運動失調・不随意運動・運動麻痺・感覚障害） ③言語機能障害（失語・構音障害） ④高次脳機能障害（注意・記憶障害） (1) 脳波検査、髄液検査、脳血管造影 (1) 開頭術、穿頭術、血管バイパス術、血管内治療、脳室ドレナージ術、脳室-腹腔シャント術、低体温療法	講義 演習

時間	目標	主題	内容	指導方法
		4) 病期や機能障害に応じた看護	(1) 脳血管障害（大脳、小脳） (2) 脳腫瘍（大脳、小脳） (3) 脳炎、髄膜炎 (4) 頭部外傷 (5) 脳梗塞の事例を用いて事例展開	
1	単位認定試験：筆記試験（70％） 演習課題（30％）			
テキスト				
系統看護学講座		専門分野	老年看護学	医学書院
系統看護学講座		専門分野	老年看護 病態・疾患論	医学書院
系統看護学講座		成人看護学〔7〕	脳・神経	医学書院

分野	専門分野	授業 科目名	リハビリテーション看護	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	
授業の目的及びねらい				
成人期・老年期のあらゆる健康状態の人に対して、心身の回復過程を理解し、個の特性に応じて生きることを支えQOLを高めるための看護の基本的な知識が理解できる。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
14	1. リハビリテーション看護の意義が理解できる。 2. リハビリテーション看護の展開に必要な概念が理解できる。 3. リハビリテーション看護の今後が理解できる。	1) リハビリテーション看護の基礎知識 2) 生活機能障害のある人とその家族の理解 1) リハビリテーション看護の目的 2) 対象との関係性 3) 専門職連携 4) QOLの各レベルと回復過程に応じた看護 5) 看護の倫理とリハビリテーション看護 1) 看護の場とリハビリテーション 2) これからのリハビリテーション看護	(1) 障害とリハビリテーションの歴史（ICFの活用） (2) 専門職の役割と機能 (3) 看護の場とその役割 (1) 障害とともに生きる (2) 社会化と文化統合 (3) 障害と加齢 (1) QOL (2) 「ジリツ」とセルフケア支援 (1) 動機と主体性 (2) 協働的パートナーシップ (3) 相互作用と意味ある世界 (1) 動きやすい環境と看護 (2) ADLと評価 (1) 生命・生活・人生・福祉用具と住環境 (2) 急性期・回復期・生活期 (1) 看護の専門性 (2) 患者の尊厳と倫理的葛藤 (1) 療養の場と看護の継続 (2) 地域包括ケアにおけるリハビリテーション看護の役割 (1) 対象の高齢化 (2) 地域リハビリテーション体制の充実と強化	講義
1	単位認定試験：筆記試験			
テキスト				
看護学テキストNICE リハビリテーション看護 南江堂 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院				

分野	専門分野	授業 科目名	小児看護学概論	
開始 年次	2 年 前期	単位数 時間数	1 単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
1. 子どもと家族を取り巻く環境を理解し、健康を支えるための看護に必要な基礎的能力を養う。 2. 子どもの成長・発達を理解し、子どもと家族への看護に必要な基礎的能力を養う。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
6	1. 小児看護の特徴と理念について理解できる	1) 子どもの理解と小児看護の役割 2) 小児医療・小児看護の変遷と課題 3) 子どもの権利	(1) 小児看護の対象 (2) 小児看護の目標と役割 (1) 小児医療の変遷 (2) 小児看護の変遷 (3) 小児看護の課題 (1) 小児医療における子どもの権利の変遷 (2) 小児医療・小児看護における倫理的配慮 (3) 子どもの権利擁護（アドボカシー）	講義 演習
4	2. 子どもと家族を取り巻く社会について理解できる	1) 子どもに関する法律と政策	(1) 小児と家族の諸統計 (2) 児童福祉 (3) 母子保健 (4) 医療費の支援 (5) 予防接種 (6) 学校保健 (7) 特別支援教育	講義 演習
2	3. 子どもの成長・発達が理解できる	1) 子どもの成長・発達とは 2) 子どもの成長・発達のアセスメント	(1) 成長・発達の概念 (2) 成長発達の原則 (3) 成長発達に影響する因子 (4) 発達課題と発達理論 (1) 形態的成長と機能発達の評価 (2) 指数による身体発育の評価 (3) 発達検査 (4) 心理・社会的発達の評価	講義
7	4. 子どもの発達段階の特徴を踏まえた関わりの工夫について理解できる	1) 発達段階を踏まえた遊びの実際	(1) 発達段階に応じた遊びの企画 (2) 遊びの実践 (3) 評価	演習
10	5. 子どもの発達段階の特徴と看護が理解できる	1) 小児期における成長・発達の特徴	(1) 乳児 (2) 幼児 (3) 学童期 (4) 思春期	講義 演習

時間	目標	主題	内容	指導方法
		2) 小児期における療育および看護	(1) 乳児の養育及び看護 ①日常生活の自立と世話 ②遊びの支援 ③事故防止 ④乳幼児突然死症候群とその予防 ⑤育児支援 (2) 幼児の療育及び看護 ①基本的生活習慣の確立 ②遊びと事故防止 ③生活習慣と感染予防 ④育児支援 (3) 学童の養育及び看護 ①学校生活への適応 ②食生活 ③学習と遊び ④生活習慣病と疾病予防 (4) 思春期の看護 ①第二性徴に関する援助 ②思春期の健康教育 ③生活習慣病予防 ④性・安全教育 ⑤親への関わり	
1	単位認定試験：筆記試験			
テキスト				
系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 国民衛生の動向・厚生指針 厚生労働統計協会 公衆衛生がみえる メディックメディア				

分野	専門分野	授業 科目名	小児看護学援助論Ⅰ	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	
授業の目的及びねらい				
1. 小児に多い疾患と小児に多い徴候を理解する				
時間	目標	主題	内容	指導方法
14	1. 小児に多い疾患の病態生理、検査、診断、治療が理解できる	1) 小児の代表的な疾患	(1) 染色体異常・体内環境により発症する先天異常 (2) 代謝性疾患 (3) 内分泌疾患 (4) 免疫・アレルギー・リウマチ性疾患 (5) 感染症 (6) 呼吸器疾患 (7) 循環器疾患 (8) 消化器疾患 (9) 血液・造血器疾患 (10) 悪性新生物 (11) 腎・泌尿器疾患および生殖器疾患 (12) 神経疾患 (13) 運動器疾患 (14) 精神疾患 (15) その他	講義
1	単位認定試験：筆記試験			
テキスト				
系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院				

分野	専門分野	授業 科目名	小児看護学援助論Ⅱ	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
1. 病気・障害などによりあらゆる症状がある子どもと家族への看護に必要な基礎的能力を養う。 2. 各病期にある子どもと家族への基本的な看護が理解できる 3. 特別な状況にある子どもと家族への看護が理解できる				
時間	目標	主題	内容	指導方法
8	1. 病気・障害をもつ子どもと家族への看護が理解できる	1) 病気・障害が子どもと家族に与える影響と看護 2) 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 3) 障害のある子どもと家族の看護	(1) 病気・障害が子どもと家族に与える影響 (2) 子どもの健康問題と看護 (1) 入院中の子どもと家族の看護 (2) 外来における子どもと家族の看護 (3) 災害時の子どもと家族の看護 (4) 在宅療養中の子どもと家族の看護 (1) 障害の捉え方 (2) 障害のある子どもと家族の特徴 (3) 障害のある子どもと家族への社会的支援	講義
6	2. 慢性的な疾患・障害がある子どもと家族への看護が理解できる	1) 慢性疾患・先天性疾患をもつ子どもと家族への看護 2) 疾患をもった子どもの看護	(1) 慢性期にある子どもと家族の看護 (2) 生活調整の継続とその支援（セルフケア能力の獲得のための養育と家族への支援） (3) 成人診療科へのスムーズな転科を見据えた移行支援（トランジション） (1) ネフローゼ症候群の小児の看護 (2) 糖尿病の小児の看護 (3) 主な症状の看護（浮腫、安静）	講義
11	3. 急性期にある子どもと家族への看護が理解できる	1) 救急救命処置が必要な子どもと家族への看護	(1) 子どもの救急におけるトリアージと対応 (2) 子どもの意識レベル (3) 主な誤飲物質と処置 (4) 子どもの熱傷の特徴・重症度および処置 (5) 溺水と処置 (6) 子どもの一時救命処置 《小児BLS、窒息解除》 (7) 生命が危機的な状況にある子どもと家族への援助	講義 演習

時間	目標	主題	内容	指導方法
2	4. エンド・オブ・ライフにある子どもと家族への看護が理解できる	2) 周手術期における子どもと家族への看護 3) 疾患をもった子どもの看護	(1) 子どもの手術の特徴、手術時の診療と看護、退院に向けての援助 (1) 気管支喘息の小児の看護 (2) 川崎病の小児の看護 (3) 急性胃腸炎の小児の看護 (4) 主な症状の看護(発熱、嘔吐、下痢、脱水、呼吸困難、けいれん)	講義
2	5. 特別な状況にある子どもと家族への看護が理解できる	1) 子どもの死の理解と看護 2) 子どもと家族への緩和ケア 3) 疾患をもった子どもの看護	(1) 子どもの死のとりえ方と子どもの反応 (2) エンドオブライフにある子どもの心身の状態と緩和ケア (1) 子どもの死を看取る家族の反応 (1) 白血病の小児の看護 (2) 主な症状の看護(痛み)	講義
1	単位認定試験：筆記試験			
テキスト		系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院		

分野	専門分野	授業 科目名	小児看護学援助論Ⅲ	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
1. 幼児への健康保健指導を計画・演習を通して、子どもの発達に応じてわかりやすく説明する方法について考えることができる				
2. 診療（検査・処置）や様々な治療が必要な子どもと家族への看護に必要な基礎的能力を養い、基本的な看護技術が理解できる				
3. 事例演習を通して、健康障害が子どもと家族に与える影響について考え看護過程を展開できる				
時間	目標	主題	内容	指導方法
10	1. 幼児への健康保健に関する指導ができる	1) 幼児への健康保健指導	(1) 健康保健教育についての指導計画書の作成 (2) 発表	演習
2	2. 子どものアセスメントについて理解できる	1) 子どものアセスメントに必要な技術	(1) コミュニケーション (2) バイタルサイン (3) 身体測定 (4) 身体的アセスメント	講義
4	3. 検査・処置を受ける子どもと家族への看護が理解できる	1) 検査・処置を受ける子ども	(1) 子どもにとっての検査・処置体験 (2) 薬物動態と薬用量の決定 (3) 検査・処置各論 ①与薬 ②輸液管理 ③抑制 ④検体採取 <採尿> <特殊体位の固定と抑制> <点滴挿入時の方法と看護> ⑤呼吸症状の緩和 <ネブライザー吸入>	講義 演示
8	4. 事例を用いた看護過程の展開ができる	1) 川崎病またはネフローゼ症候群の患児の看護	(1) アセスメント (2) 全体像 (3) 援助計画立案	演習
5	5. 小児看護に必要な看護技術が習得できる。	1) 身体計測、バイタルサイン測定の実際	(1) 発達段階に応じた説明と同意 《プレパレーション》 《ディストラクション》 《バイタルサイン測定》 《身体計測》 《安全な環境整備》	実技演習
1	単位認定試験：筆記試験（50％） 演習課題（50％）			
テキスト				
系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院				
系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院				
新改訂 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ				

時間	目標	主題	内容	指導方法
7	3. 女性のライフサイクル各期の特徴と健康問題に対する看護が理解できる。	1) 女性のライフサイクルとライフステージ 2) 思春期の健康と看護 3) 性成熟期の健康と看護 4) 更年期・老年期の健康と看護	(5) 少子社会における次世代育成支援に関する法律 次世代育成支援対策推進法・成育基本法 (6) 母子保健施策 子育て世代包括支援センター・産後ケア事業・周産期医療システム (1) 現代女性のライフサイクルの変化 (1) 思春期女性の特徴 第二性徴・性行動の発達性周期 (2) 健康課題と看護 月経異常・性感染症 望まない妊娠と人工妊娠中絶 (1) 性成熟期女性の特徴 婚姻と就労・家族計画 不妊・生殖補助医療 (2) 健康課題と看護 月経困難症 (1) 更年期女性・老年期女性の特徴 (2) 健康課題と看護 ホルモンの変化・子宮脱・膣炎	講義
4	4. 現代社会における母性の健康をめぐる課題について理解できる。	1) 母性の健康をめぐる課題と看護	(1) 性暴力を受けた女性に対する看護 (2) 児童虐待と看護 (3) 国際化社会と看護	
1	単位認定試験			
テキスト				
系統看護学講座 母性看護学〔1〕 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院 公衆衛生がみえる メディックメディア 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				

分野	専門分野	授業 科目名	母性看護学援助論Ⅰ	
開始 年次	2 年 後期	単位数 時間数	1 単位 15時間	
授業の目的及びねらい				
1. ヘルスプロモーション型看護診断の観点から周産期における対象の看護過程を理解する。 2. 周産期における対象の看護計画を立案し、看護実践に必要な基礎的能力を養う。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
2	1. 周産期における対象の看護過程の特徴が理解できる。	1) 妊娠・分娩期が産褥経過に及ぼす因子	(1) ヘルスプロモーション型看護診断の考え方と意義 (2) 褥婦と新生児のアセスメント 妊娠経過及び分娩経過が及ぼす影響	講義
12	2. 産褥期の標準看護計画に基づき、母児に必要な看護が理解できる。	1) 事例検討 2) 標準看護計画の立案	(1) 母児のアセスメント (2) 産褥期の標準看護計画の立案に基づく臨床判断と看護 (3) 退院に向けた保健指導 ・産褥期の生活の注意点 ・育児に必要な知識や技術 ・母乳育児確立への支援 ・産褥期に起こりうる異常の予防	演習
1	単位認定試験：課題及び筆記試験			
テキスト				
系統系看護学講座 母性看護学〔1〕 母性看護学概論 医学書院 系統系看護学講座 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院 参考文献 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版株式会社				

分野	専門分野	授業 科目名	母性看護学援助論Ⅱ (妊娠期、分娩期の看護)	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
【妊娠期】 1. 妊娠期の生理的変化に伴う経過及び看護について理解する。 2. 妊娠期の主な正常からの逸脱について学習し、予防と対処方法について理解する。				
【分娩期】 1. 分娩期の生理的変化に伴う経過及び看護について理解する。 2. 分娩期に起こりうる正常からの逸脱について学習し、母児に及ぼす影響について理解する。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
11	1. 正常な経過をたどる妊婦の看護が理解できる。	1) 妊娠の生理 2) 胎児の発育と生理 3) 妊婦の身体的・心理・社会的特徴と妊婦及び家族の看護	(1) 妊娠の成立 (2) 妊娠期の定義 (3) 母体の生理的変化 (1) 胎児の発育 (2) 胎児附属物の機能と役割 (1) 妊婦の心理と看護 (2) 胎児との愛着形成 (3) 妊婦の健康診査 ・超音波断層法・内診の介助 ・腹囲・子宮底測定 ・胎児の発育状態と評価法 ・間欠的胎児心拍数聴取 ・ノンストレステスト〈NST〉 ・レオポルド触診法 (4) 妊婦の健康生活とアセスメント ・生活の変化と留意点 (5) 妊婦と家族への看護 ①母子保健サービス ②妊婦の健康相談・教育の実際 ・マイナートラブルと対処方法 ・健康保持・増進、セルフケアに関する保健指導 ③親になるための準備教育 ・出産準備教育 ・バースプラン ・家族の再調整	講義
5	2. 妊娠期に起こりうる主な異常と妊婦の看護が理解できる。	1) 妊娠期の異常と看護	(1) 妊娠期の感染症 (2) 妊娠疾患 ①妊娠悪阻 ②妊娠貧血 ③妊娠糖尿病 ④妊娠高血圧症候群 (3) 多胎妊娠 (4) 妊娠持続期間の異常 ①不育症 ②流産・早産／切迫早産	講義

時間	目標	主題	内容	指導方法
8	3. 正常な経過をたどる産婦の看護が理解できる	1) 分娩の進行と産婦の身体的、心理・社会的特徴と看護	(1) 分娩期の定義 (2) 分娩の3要素 (3) 分娩の機序 (4) 分娩の経過 ①分娩に伴う産婦の身体的変化 ②分娩が胎児に及ぼす影響 ③破水時・前期破水時の看護 (5) 産婦の健康に関するアセスメント (6) 産婦と家族への看護 ①基本的ニーズへの支援 ②安楽な分娩への看護 ③心理面への看護 ・出産体験が肯定的になるための看護 ・バースレビュー ・家族発達を促す看護	講義
5	4. 分娩に見られる異常と産婦の看護が理解できる。	1) 分娩の異常と看護	(1) 産道の異常 (2) 娩出力の異常 (3) 胎児の異常による分娩障害 (4) 胎児附属物の異常 ①前置胎盤・低置胎盤 ②常位胎盤早期剥離 ③臍帯の異常・羊水の異常 (5) 胎児機能不全 (6) 分娩時異常出血・産科処置と産科手術 (7) 帝王切開術	講義 演習
1	単位認定試験			
テキスト				
系統系看護学講座 母性看護学〔1〕 母性看護学概論 医学書院 系統系看護学講座 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院				

分野	専門分野	授業 科目名	母性看護学援助論Ⅲ (産褥期、新生児の看護)	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
【産褥期】 1. 産褥期の生理的変化及び、母子、家族への看護について理解する。 2. 産褥期の主な正常からの逸脱について学習し、予防と対処方法について理解する。				
【新生児】 1. 新生児期の機能と生理的変化及び新生児への看護について理解する。 2. 新生児期の主な正常からの逸脱について学習し、予防と対処方法について理解する。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
8	1. 正常な経過をたどる褥婦の看護が理解できる。	1) 産褥期の身体的、心理・社会的変化 2) 褥婦と家族の看護	(1) 産褥期の定義 (2) 妊婦の身体的特徴 退行性変化と進行性変化 (1) 褥婦・家族の心理的变化 (2) アセスメントと看護 ①子宮復古を促す看護 子宮底の高さと硬さの観察 ②褥婦のセルフケア能力を高める看護 ③母乳栄養確立への看護 栄養 授乳 搾乳 乳房・乳頭の観察 セルフケアを促す看護 ④役割獲得への看護 愛着・母子相互作用 育児技術 生活指導 家族関係再構築の支援 退院後の生活調整	講義
4	2. 産褥期にみられる異常と看護が理解できる	1) 産褥の異常と褥婦の看護	(1) 帝王切開後の褥婦の看護 (2) 多胎児出産後の看護 (3) 児を亡くした褥婦・家族の看護 (4) 子宮復古不全 (5) 子宮内感染症 (産褥熱) (6) 乳腺炎 (7) 産褥血栓性 (8) マタニティーブルーズと産後うつ病	講義
11	3. 正常な経過をたどる (早期) 新生児の看護が理解できる。	1) 新生児の機能と生理的変化 2) 出生直後の看護	(1) 新生児の定義 (2) 新生児の機能 子宮外適応現象 (生理的変化) (1) 新生児の診断 出生直後の観察と測定・バイタルサイン測定・身体計測 (2) 出生直後のアセスメント アプガールスコア・成熟度の評価・黄疸の評価・新生児蘇生法に沿ったルーチンケア	講義

時間	目標	主題	内容	指導方法
2	4. 新生児期にみられる異常と看護が理解できる。	3) 新生児の生理的変化と看護 1) 新生児の異常と看護	(1) 子宮外生活への適応状態 日々の観察とアセスメント 全身観察・生理的体重減少 生理的黄疸とスクリーニング (2) 子宮外生活適応への看護 保育環境・栄養・清潔 感染予防・ビタミンK投与 新生児マススクリーニング (3) 新生児期に起こりやすい医療事故 (1) 新生児仮死 (2) 分娩外傷 (3) 低出生体重児・早産児 (4) 新生児一過性多呼吸（TTN） (5) 呼吸窮迫症候群（RDS） (6) 胎便吸引症候群（MAS） (7) 高ビリルビン血症 (8) 新生児ビタミンK欠乏症 (9) 低血糖症	講義
4	5. 母性看護に必要な看護技術が理解できる	1) 母性看護に必要な看護技術	(1) 新生児の全身観察 バイタルサインの測定 (2) 新生児のケアに必要な技術 オムツ交換・更衣・沐浴 抱き方・哺乳及び排気 (2) 子宮復古の観察	実技演習
1	単位認定試験			
テキスト				
系統看護学講座	母性看護学	〔1〕	母性看護学概論	医学書院
系統看護学講座	母性看護学	〔2〕	母性看護学各論	医学書院
系統看護学講座	小児看護学	〔2〕	小児看護学各論	医学書院

分野	専門分野	授業 科目名	精神看護学概論Ⅰ	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
精神の健康の概念を理解し、多様な場で必要とされる精神の健康の保持・増進についての基礎的知識を養う。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
29	1. 精神保健の基本、精神看護の考え方が理解できる。 <			

分野	専門分野	授業 科目名	精神看護学概論Ⅱ	
開始 年次	2 年 後期	単位数 時間数	1 単位 15時間	
授業の目的及びねらい				
1. 直接的に体験することによって、精神障害者の理解を深める。 2. 精神保健医療福祉の歴史の変遷をふまえた上で、現状と今後の課題について学ぶ。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
14	1. 精神保健医療福祉の変遷を理解することができる。 2. 精神保健医療福祉に関する法律や施策の必要性について理解することができる。	1) 精神障害者の理解 2) 精神保健医療福祉の変遷 1) 精神科領域に必要な法律と制度	(1) 精神科病院見学 ①スティグマについて考える ②当事者の語り (1) 精神障害と治療の歴史 (2) 日本における精神医学・精神医療の流れ ①現行法に至るまでの変遷 ②地域移行の動き 精神保健福祉の改革ビジョンと今後の課題と支援 (1) 精神保健福祉法 ①精神保健指定医 ②入院形態 ③入院患者の権利養護 (2) 障害者総合支援法 (3) 医療観察法	講義 演習
1	単位認定試験：筆記試験			
テキスト				
系統看護学講座 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学〔2〕 精神看護の展開 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				

分野	専門分野	授業 科目名	精神看護学援助論Ⅰ	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
精神に障害をもつ対象者を理解する上で必要な基礎的知識を学び、患者 - 看護師関係を構築する上で土台となる考え方を学ぶ。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
29	1. 精神疾患の病態・診断・治療について理解できる。 <			

分野	専門分野	授業 科目名	精神看護学援助論Ⅱ	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
1. 精神に障害をもつ対象者の疾患や病期に応じた看護の基礎的知識を学ぶ。 2. 対象者の回復を促す支援について、幅広い考え方や資源の活用を学ぶ。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
13	1. 入院治療を必要とする対象者の回復に向けての援助が理解できる。	1) 入院の治療環境 2) 身体ケア	(1) 入院治療の意味 (2) 安全管理 ①リスクマネジメント ②病棟の環境と行動制限 (1) 薬物療法と看護 (2) 電気けいれん療法と看護 (3) 身体合併症と看護	講義 演習
	2. 疾患の特徴や治療目的に応じた看護が理解できる。	1) 疾患別看護	(1) 統合失調症患者の看護 (2) 気分障害患者の看護 (3) アルコール症患者の看護	
16	3. 対象者の強みを引き出し回復に向けての支援が理解できる。	1) 地域移行支援 2) 地域生活支援	(1) 長期入院患者の退院支援 ①精神科医療の現状 ②セルフケアへの援助 (2) 精神科リハビリテーション ①デイケア ②作業療法 ③社会生活技能訓練 (3) 慢性期にある統合失調症患者の事例展開 (1) 回復への支援 ①ストレングスモデル ②リカバリーを促す支援 (2) 社会資源の活用 ①精神科訪問看護 ②障害者総合支援法による 障害福祉サービス ③多職種連携	講義 演習
1	単位認定試験：筆記試験（70％） 演習課題（30％）			
テキスト				
系統看護学講座 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学〔2〕 精神看護の展開 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院				

分野	専門分野	授業 科目名	看護管理	
開始 年次	3 年 前期	単位数 時間数	1 単位 15時間	
授業の目的及びねらい				
看護マネジメント（看護管理）について学ぶ。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
14	1. マネジメント・看護マネジメントについて理解できる。 <			

分野	専門分野	授業 科目名	看護医療安全	
開始 年次	2 年 後期	単位数 時間数	1 単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
医療安全に関する基礎的知識を身につけ、医療事故を予防するための方法を学ぶ。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
15	1. 医療安全について 学び、リスクマネ ジメントの基礎が 理解できる。	1) 医療安全における基盤 となる考え方 2) 医療安全システムの構築	(1) 医療安全と看護の理念 ①医療安全の意味と重要性 ②看護職の法的規定と医療 安全 ③医療事故と看護業務 (1) 医療安全への取り組みと医 療の質の評価 ①国の医療安全への取り組み ②医療安全管理者 医療安 全の中心的役割 ③医療事故への対応 ④医 療 事 故 の 被 害 者（患 者）・家族の思いに寄り 添ったケア ⑤医療事故の報告制度 ⑥医療の質の評価 (2) 事故発生のメカニズムとリ スクマネジメント ①事故発生のメカニズム ②事故分析 ③事故対策 (3) チームで取り組む安全文化 の醸成	講義
14	2. 医療安全対策が理 解できる。	1) 事故から学ぶ医療安全	(1) 看護業務に関連する自己と 安全対策 ①看護業務と事故発生要因 ②各領域のさまざまな事例 に関する分析と対策 (2) KYT演習	講義 演習
1	単位認定試験：課題評価、筆記試験			
テキスト				
系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践〔2〕 医療安全 医学書院				

分野	専門分野	授業 科目名	災害看護と国際協力	
開始 年次	3 年 前・後期	単位数 時間数	1 単位 30時間	
授業の目的及びねらい				
1. 災害救護活動における看護職の役割を理解し、災害看護に必要な基礎的知識を学ぶ。 2. 国際社会における看護の役割を学ぶ。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
6	1. 災害医療に関する基礎知識が理解できる	1) 災害と災害医療 2) 災害発生時の社会の対応・しくみ 3) 災害が生命や生活に及ぼす影響	(1) 災害の定義と種類 (2) 災害医療の特徴 (3) 災害医療と法的問題 (1) 災害に関連する制度 (2) 災害時の支援体制 (3) 情報の収集と伝達体制 (4) 災害マネジメント (5) 個人の備え、災害ボランティア活動 (1) 災害時の地域アセスメント (2) 災害種類別の疾患の特徴 (3) 災害時の被災者・援助者の心理	講義
19	2. 災害時の看護の役割と機能を理解できる。	1) 災害看護の基礎知識 2) 災害時の看護活動 3) 災害時に必要な看護技術	(1) 災害看護の基本的な考え方 (2) 災害看護の対象 (3) 災害看護の特徴 (1) 災害各期の看護 ①超急性期 ②急性期 ③慢性期 ④静穏期 (2) 災害者特性に応じた看護 (3) 災害と心のケア (1) ≪災害時の看護技術≫ ①災害発生時指示に従った行動 ②心肺蘇生（AEDを含む） ③トリアージ ④救急技術（止血法・包帯法）	講義 実技演習
4	3. 国際社会の現状から看護の果たす役割を理解できる。	1) 国際看護学	(1) 看護における国際化の視点 (2) 国際社会における看護の対象 (3) 多様な文化と看護 (4) 国際協力活動と看護	講義・演習
1	単位認定試験：筆記試験			
テキスト				
系統看護学講座 看護の統合と実践〔3〕 災害看護学・国際看護学 医学書院				

分野	専門分野	授業 科目名	臨床看護技術演習	
開始 年次	3 年 後期	単位数 時間数	1 単位 15時間	
授業の目的及びねらい				
看護実践能力の向上を目指すための、基本的な能力を養う。				
時間	目標	主題	内容	指導方法
7	1. 複数の対象者の状況をアセスメントし、看護計画が立案できる	1) 複数の対象者の状況のアセスメント・計画立案	(1) 演習ガイダンス (2) 事例紹介 (3) 複数患者の理解（2 事例） (4) 複数患者の看護計画立案 (5) 複数患者に対する看護の優先順位の判断	講義 演習①
5	2. 複数の対象者の状況を判断した看護が実践できる	1) 複数の対象者の状況を判断した看護実践	(1) 複数患者に必要な看護の実践 (2) 実践の振り返り	演習②
2	3. 看護実践能力の評価から、自己の課題を明確にできる	1) 対象者の状況を判断した看護実践と評価	(1) 客観的臨床能力試験(OSCE) (2) 看護実践能力の自己評価	
1	単位認定試験：課題評価、筆記試験、客観的臨床能力試験（OSCE）、リフレクション			
テキスト				

実習名 基礎看護学実習Ⅰ（病院で療養している対象者とその看護を知る）

時 期	1 年 後期
単位（時間）	1 単位 （45時間）

目的：病院で療養する対象者を理解するとともに、対象者への看護の基本を理解する。

目標	行動目標	実習内容
1. 病院で療養する対象者を統合体として理解できる。	1) 入院が対象者の生活に及ぼす影響について考えることができる。	(1) 対象者・家族の入院前の生活 (2) 対象者・家族の入院中の生活 (3) 入院生活に対する対象者・家族のおもい (4) 入院が対象者・家族の生活に及ぼす影響
	2) 対象者を統合体として理解できる。	(1) 身体的・精神的・社会的・文化的側面 (2) 4つの側面の関連性
2. 対象者が快適に療養生活を過ごせるよう、環境を整えることができる。	1) 対象者が快適に療養生活を過ごすための目標を見出せる。	(1) 対象者の療養環境に対するニーズ (2) 療養環境のアセスメント
	2) 1日を通して、看護の視点で対象者の環境を整えることができる。	(1) 対象者の療養生活の状況に配慮した環境整備
3. 対象者との関わりを通して、看護技術としてのコミュニケーションの意味を考える。	1) 対象者の反応を捉えながらコミュニケーションがはかれる。	(1) 目的をもって対象者と関わる (2) コミュニケーション技術の活用
	2) 対象者との信頼関係を構築するためのコミュニケーションにおける自己の傾向や課題を見出せる。	(1) コミュニケーション場面の想起 (2) コミュニケーションの振り返り (3) 自己の傾向や課題の明確化
4. 3年生・看護師の看護の実際を通して、対象者に応じた援助について考える。	1) 3年生や看護師が対象者にどのように援助を行っていたか根拠をふまえて述べられる。	(1) 3年生や看護師が行う援助の見学 (2) 援助中の対象者の反応 (3) 援助における安全・安楽・自立・経済性 (4) 対象者の状況に応じた配慮や工夫
5. 自分が目指したい看護師像について考える。	1) 自分が目指したい看護師像について述べられる。	(1) 基礎看護学実習Ⅰを振り返り、どのような看護師になりたいか自己の考えを述べる
6. 看護学生としての自己の役割や責任を意識し、常に誠実に実習に臨むことができる。	1) 自己の課題を意識し、主体的に学習に臨むことができる。	(1) 事前準備や必要な自己学習 (2) 自ら省み学ぶ姿勢
	2) 相手を尊重した言葉遣いや立振る舞いで学習することができる。	(1) 全ての人を尊重した学習姿勢
	3) 3年生・グループメンバー・指導者・教員への報告・連絡・相談ができる。	(1) 適切なタイミングで必要な報告・連絡・相談 (2) 互いの学びを深めるための情報共有
	4) 指示された決まり事を守ることができる。	(1) 守秘義務 (2) 決まり事の遵守

実習名 基礎看護学実習Ⅱ（病院で療養している対象者への日常生活における援助の実施）

時 期	1 年 後期
単位（時間）	2 単位（90時間）

目的：看護過程のプロセスを踏まえて対象者を理解し、必要な日常生活援助の実践ができる

目標	行動目標	実習内容
1. 対象者との関わりを通して健康障害による日常生活への影響を理解できる	1) 対象者の健康障害について、受け持つまでの経過を踏まえてアセスメントできる	(1) 身体的・精神的・社会的・文化的情報の収集 (2) 主観的・客観的情報の収集 (3) 情報源を活用して収集 (4) 受け持つまでの経過の要約 (5) 現在、起こっている症状や治療についての解釈・分析
	2) ヘンダーソンの基本的ニーズの枠組みを利用し、健康障害が対象者の日常生活にどのように影響を及ぼしているのかをアセスメントし、看護問題を抽出することができる	(1) 基本的欲求の充足・未充足の判断 (2) 未充足の原因・誘因を検討 (3) 必要としている援助の究明 (4) 解釈・分析のまとめ (5) 顕在的問題の抽出 (6) 原因・要因＋問題を示す人の反応（症状・行動）で表現する (7) 対象者に必要な日常生活援助の明確化
2. 対象者の健康状態に配慮した日常生活援助が実施できる	1) 根拠や対象者のニーズに基づいた日常生活援助の計画が立てられる	(1) 個別性を反映した目標の設定 (2) 安全性・安楽性・自立性・経済性を考慮した計画 (3) 個別性を反映した計画
	2) 援助中の対象者の反応を捉え、適切な声掛けができる	(1) 実施前・中・後の対象者の表情・反応・言動を確認しながら実施 (2) 対象者を尊重した実施
	3) 対象者の状態に応じて安全・安楽・自立・経済性を考慮し、日常生活援助が実施できる	(1) 実施前に援助可能かどうかを判断 (2) 対象者の安全性・安楽性・自立性・経済性を考慮した実施
	4) 実施した援助や観察事項について適切に報告できる	(1) 実施した援助の実際を報告 (2) 対象者の反応・状態を報告 (3) 適切なタイミングに報告 (4) 事実を正確に報告
	5) 実施した援助について看護の視点で評価し、よりよい看護につなげることができる	(1) 主観的・客観的情報に基づいたアセスメント ・援助前後の対象者の変化 ・援助の効果 ・目標の達成度 ・要因の分析 ・今後の方向性 ・計画の追加・修正

目標	行動目標	実習内容
3. 対象者との関わりを通して、看護技術としてのコミュニケーションの意味を考えることができる	1) 対象者とのコミュニケーションにおいて、お互いに及ぼし合う影響を分析・考察し、自己の傾向と課題を見出すことができる	(1) 目的を持って対象と関わる (2) コミュニケーション技術の活用 (3) コミュニケーション場面の想起 (4) コミュニケーションの振り返り
4. 看護学生としての自己の役割や責任を意識し、常に誠実に実習に臨むことができる	1) 自己の課題を意識し、主体的に学習に臨むことができる 2) 相手を尊重した言葉遣いや立振る舞いで学習することができる 3) グループメンバー・指導者・教員への報告・連絡・相談ができる 4) 指示された決まり事を守ることができる	(1) 事前学習や必要な自己学習 (2) 自ら省み学ぶ姿勢 (1) すべての人を尊重した学習姿勢 (1) 適切なタイミングで必要な報告・連絡・相談 (2) 互いの学びを深めるための情報共有 (1) 守秘義務 (2) 決まりごとの遵守

実習名 基礎看護学実習Ⅲ（病院で治療している対象者への看護の実施）

時 期	2 年 前期
単位（時間）	2 単位 （90時間）

目的：看護の実践を通して対象者のその時、その状況のニーズについて捉えることができる。また、対象者の健康問題を捉え、療養生活を支える援助を計画、実践できる。

目 標	行 動 目 標	実 習 内 容
1. 対象者との関わりを通して健康障害による生活への影響を捉え、看護問題や共同問題を導き出すことができる	1) 様々な情報源を活用し意図的に対象者を捉えることができる 2) 健康障害が対象者の生活にどのように影響を及ぼしているのか、根拠に基づいて解釈・分析し看護問題や共同問題を明確にできる 3) 看護問題や共同問題を統合し、現状に合わせた優先順位を導き出すことができる	(1) 身体的・精神的・社会的・文化的情報の収集 (2) 主観的・客観的情報の収集 (3) 情報源を活用した収集 (1) 正常の逸脱の判断 (2) 要因はなにか (3) 今後、どのようなことが生じうるか (4) 問題の有無を明確にする (5) 看護の方向性の検討 (1) 問題の統合 (2) 看護問題・共同問題の明確化 (3) 看護問題・共同問題の優先順位を明確化
2. 対象者の療養生活を支援する看護が実践できる	1) 対象者の看護問題や共同問題を解決する看護計画が立案できる 2) 対象者の反応を捉えながら看護を実施できる 3) 実施した看護を適切に報告できる 4) 実施した看護について評価し、次に活かすことができる	(1) 個別性を反映した目標の設定 (2) 安全性・安楽性・自立性・経済性を考慮した計画 (3) 個別性を反映した計画 (1) 実施前・中・後の対象者の表情・反応・言動を確認しながら実施 (2) 対象者の安全性・安楽性・自立性・経済性を考慮した実施 (1) 対象者の状態と実施した看護の実際を報告 (2) 対象者の状態変化の有無や実施した看護による影響を考察し報告 (3) 適切なタイミングに報告 (1) 主観的・客観的情報に基づいたアセスメント ・実施前後の対象者の変化 ・実施した看護の効果 ・目標の達成度 ・要因の分析 ・今後の方向性 ・計画の追加・修正

目標	行動目標	実習内容
3. 看護実践を通して、臨床判断の視点をもって自己を振り返り行動につなげることができる	1) 対象者とのかかわりを臨床判断の視点で振り返り、今後の援助に繋げることができる	(1) 臨床判断モデルに基づいた考察 ・気づく ・解釈する ・反応する ・省察する (2) 考察したことから自己の課題解決に向けた行動
4. 看護学生としての自己の役割や責任を意識し、常に誠実に実習に臨むことができる	1) 自己の課題を意識し、主体的に学習に臨むことができる 2) 相手を尊重した言葉遣いや立振る舞いで学習することができる 3) グループメンバー・指導者・教員への報告・連絡・相談ができる 4) 指示された決まり事を守ることができる	(1) 事前学習や必要な自己学習 (2) 自ら省み学ぶ姿勢 (1) すべての人を尊重した学習姿勢 (1) 適切なタイミングで必要な報告・連絡・相談 (2) 互いの学びを深めるための情報共有 (1) 守秘義務 (2) 決まり事の遵守

実習名 地域・在宅看護論実習Ⅰ

時 期	1 年 前期
単位（時間）	1 単位 （45時間）

目的：住み慣れた地域で暮らす対象の暮らしを理解し、人々の暮らしと健康を支える看護師の役割について学ぶことができる。

目標	行動目標	実習内容
1. 様々な場における対象・家族の暮らしを理解できる	1) 各施設における対象者・家族の暮らしについて述べる ことができる。 2) 対象者・家族の暮らしに対する 思いを知ることができる。	(1) 対象者・家族の1日の過ごし方 (2) 対象者・家族の毎日の暮らし (3) 生活背景 (1) 対象者・家族の暮らしに対する意向や希望 (2) 看護師に対する思い
2. 看護活動の場と看護の実際を理解できる	1) 各施設の概要と機能を述べ ることができる。 2) 看護活動の見学を通して対象 者・家族への関わり方の実際 を述べるができる。	(1) 各施設の概要・機能 ①設置主体 ②利用者の概要 ③職員の概要 ④地域における役割 (1) 看護の目的 (2) 看護師の業務の実際 (3) 対象者・家族の意向・希望を支える看護 への思い
3. 看護活動の場面を通して人々の暮らしと健康を支える看護師の役割について考えることができる	1) 対象者・家族の暮らしに対 する思い、看護師の実際の 関わりや思いを把握した上 で、各施設における看護師 の役割について自己の考え を述べるができる。 2) 対象者・家族の暮らしと健 康を支えるための看護師の 役割について自己の考えを 述べるができる。	(1) 対象者・家族の暮らしに対する意向や希 望をふまえ、各施設において看護師は対 象者・家族をどのように支えることがで きるか (1) 対象者・家族の暮らしに対する意向や希 望と健康を支えるための看護師の役割
4. 看護学生としての自己の役割や責任を意識し、常に誠実に実習に臨むことができる	1) 自己の課題を意識し、主体的 に学習に臨むことができる。 2) 相手を尊重した言葉遣いや 立振る舞いで学習すること ができる。 3) グループメンバー・指導者・ 教員への報告・連絡・相談 ができる。 4) 指示された決まり事を守る ことができる。	(1) 事前学習や必要な自己学習 (2) 自ら省み学ぶ姿勢 (1) すべての人を尊重した学習姿勢 (1) 適切なタイミングで必要な報告・連絡・ 相談 (2) 互いの学びを深めるための情報共有 (1) 守秘義務 (2) 決まり事の遵守

実習名 地域・在宅看護論実習Ⅱ

時 期	3年 前・後期
単位（時間）	2単位（90時間）

目的：在宅療養を継続している本人・家族の暮らしを理解し、在宅療養を継続するための看護が果たす役割を学ぶ。

目標	行動目標	実習内容
1. 在宅療養者と家族の生活上の問題が理解できる。	1) 療養者と家族の生活の状況を述べることができる。	(1) 療養生活の経過 (2) 療養者と家族の生活史 (3) 居住環境と地域環境 (4) 療養者と家族の一日の生活・生活リズム (5) 療養者と家族の望む生活
	2) 療養者の健康上の問題が療養者と家族の生活に与える影響について述べるができる。	(1) 療養者の健康上の問題 (2) 療養者の健康上の問題が生活行動に与える影響（現在の生活・今後の生活） (3) 療養者の健康上の問題が心理面・社会面に与える影響 (4) 家族の生活に与える影響 (5) 療養生活を継続していく上での問題
2. 在宅療養者と家族の生活を支援するシステムが理解できる。	1) 療養者と家族が在宅療養を継続していくための社会資源について述べるができる。	(1) 在宅療養を支えるフォーマルな資源 (2) 在宅療養を支えるインフォーマルな資源 (3) 活用している社会資源が担う役割 (4) 多職種連携の実際
3. 在宅療養者と家族のQOLの向上をめざす看護が理解できる	1) 訪問の目的と援助の実際から、療養者と家族の生活への影響について考え述べるができる。	(1) 訪問の目的 (2) 療養者・家族の意向の把握 (3) 訪問時の療養者・家族の状況把握 (4) 訪問時行う援助内容 (5) 援助の実際と実施 (6) 実施した援助の評価
	2) 受け持ち以外の療養者について、訪問の目的と援助の実際から、療養者と家族に提供される看護の意味について考え述べるができる。	(1) 訪問の目的 (2) 訪問時の療養者・家族の状況把握 (3) 療養者・家族の生活を支える看護の実際と関りの意味
	3) 療養者と家族がその人らしく生活を送るために必要な看護について述べるができる。	(1) 必要な看護の計画 ①療養者と家族の主体性を尊重した援助 ②療養者と家族の生活をふまえた援助 ③介護負担軽減のための援助
	4) 療養者と家族と望ましい援助関係を築くための態度を考え行動できる。	(1) 訪問看護師の援助関係を築くための行動 (2) 訪問時の態度

目標	行動目標	実習内容
4. 住み慣れた地域での生活を支える施設の役割と支援の実際について述べるができる。	1) 地域包括支援センターもしくは居宅介護支援事業所の機能と取り組みの実際を述べるができる。	〈地域包括支援センター〉 (1) 設置目的・設置主体 (2) 関係職種とその役割 (3) 地域・利用者の特徴 (4) 多職種との連携・協働 (5) 制度横断的支援の実際 (6) 基本機能 (7) 包括的支援事業の実際 〈居宅介護支援事業所〉 (1) 居宅介護支援事業所の役割 (2) 在宅療養者を支援するチームにおける連携の重要性 (3) 介護支援専門員の役割 (4) 居宅介護支援の実際
5. 在宅ケアを効果的に行うための保健・医療・福祉の連携と看護職の役割が理解できる。	1) 在宅療養準備期の看護の実際を述べるができる。 2) 訪問看護ステーションの概要と役割を述べるができる 3) 地域包括ケアシステムを理解し、その中で訪問看護師が果たす役割を述べるができる。	(1) 退院調整・退院支援の実際 (2) 退院調整における多職種連携の実際 (3) 退院調整における看護師の役割 (1) 当該訪問看護ステーションの概要 (2) 当該訪問看護ステーションの機能と役割 (1) 在宅療養を支援するサポートシステムの把握 (2) 保健・医療・福祉の連携と協働 (3) 地域包括ケアシステムの中での訪問看護師の役割
6. 看護学生としての自己の役割や責任を意識し、常に誠実に実習に臨むことができる。	1) 自己の課題を意識し、主体的に学習に臨むことができる。 2) 相手を尊重した言葉遣いや立振る舞いで学習することができる。 3) グループメンバー・指導者・教員への報告・連絡・相談ができる。 4) 指示された決まり事を守ることができる。	(1) 事前学習や必要な自己学習 (2) 自ら省み学ぶ姿勢 (1) すべての人を尊重した学習姿勢 (1) 適切なタイミングで必要な報告・連絡・相談 (2) 互いの学びを深めるための情報共有 (1) 守秘義務 (2) 決まり事の遵守

実習名 成人・老年看護学実習 I

時 期	2 年 後期
単位（時間）	2 単位 （90時間）

- 目的： 1. 成人期、老年期の対象者の特徴を理解し、対象者が社会生活の中でより健康に過ごすためにどのような健康活動を行っているかを学び、実践できる。
2. さまざまな施設を利用し、健康支援を受けながら生活する対象者への看護の果たす役割について考える。

目標	行動目標	実習内容
1. 対象者の発達段階に応じた特徴を理解できる。	1) 成人期の特徴を述べることができる。 2) 老年期の特徴を述べることができる。	(1) 加齢により変化し続ける身体 ・成熟と老化 ・できる能力の維持 など (2) 心理・精神的な特徴 ・発達課題、知的能力 ・価値観、生きがいや活力 ・喪失体験 など (3) 社会との相互作用 ・家族での役割の変化 ・就労状況、経済力 ・地域での役割 など (4) 文化的側面 ・その人らしい生活 など
2. 地域で生活する対象者が、健康的に生活するための行動について考えることができる。	1) 成人期の対象者の健康を意識した生活の実際を述べることができる。 2) 老年期の対象者の健康を意識した生活の実際を述べることができる。 3) 各施設の概要と意義について述べることができる。 4) 成人期の対象者が施設を利用する目的とその効果について考えることができる。 5) 老年期の対象者が施設を利用する目的とその効果について考えることができる。	(1) 普段の暮らし ・1日のスケジュール ・行事、ライフイベント ・ADL、IADL ・他者交流の実際 ・日々の楽しみ、趣味・嗜好 (2) 社会生活の実際 ・生活者にとっての健康障害の予防（定期健康診断、市町村による健康増進事業） ・持病に対する定期的な受診の継続 ・病気やけがの予防と受診行動 ・生活習慣（食習慣・運動習慣） ・健康への思い (1) 各施設の概要と意義 (2) 利用者の健康活動の目的 (1) 施設内における他者との交流とその効果 (2) 健康を意識した生活を継続するための行動・工夫

目標	行動目標	実習内容
3. 対象者の健康的な生活を支えるために看護が果たす役割について考えることができる。	1) 施設における看護師の役割を述べることができる。	(1) 施設内における看護師の活動 ・診療の補助 ・日常生活の援助 ・健康管理 (2) 利用者を取り巻く職種と情報の共有 (3) 家族支援
4. 高齢者の特徴に合わせた健康の維持・増進に向けた援助が実践できる。	1) 対象者の特徴に合わせた日常生活援助について考察できる。 2) 対象者にあわせた健康の維持・増進に向けた援助の必要性が理解できる。 3) 対象者にあわせた健康の維持・増進に向けた援助が実践できる。	(1) 日常生活援助の見学及び介助 (1) 施設利用者に対して行われるレクリエーションへの参加 (1) レクリエーション立案・実践・振り返り
5. 看護学生としての自己の役割や責任を意識し、常に誠実に実習に臨むことができる。	1) 自己の課題を意識し、主体的に学習に臨むことができる。 2) 相手を尊重した言葉遣いや立振る舞いで学習することができる。 3) グループメンバー・指導者・教員への報告・連絡・相談ができる。 4) 指示された決まりごとを守ることができる。	(1) 事前学習や必要な自己学習 (2) 自ら省み学ぶ姿勢 (1) すべての人を尊重した学習姿勢 (1) 適切なタイミングで必要な報告・連絡・相談 (2) 互いの学びを深めるための情報共有 (1) 守秘義務 (2) 決まりごとの遵守

実習名 成人・老年看護学実習Ⅱ

時 期	2年 後期
単位（時間）	2単位（90時間）

目的：慢性的な経過をたどる対象者の健康問題を捉え、療養生活を支える援助を計画、実践できる。

目標	行動目標	実習内容
1. 成人期・老年期の特徴をふまえ慢性的な経過をたどる対象者の生活を捉えることができる	1) 対象者の発達段階や時間的経過をふまえて健康障害について理解できる	(1) 発達段階による影響 (2) 健康障害を起こしている疾患・障害 (3) 症状・障害の時間的経過 (4) 治療や回復の経過
	2) 現在の健康障害が生活に及ぼす影響について理解できる	(1) 発達課題 (2) 対象者の健康時や入院前の生活状況 (3) 入院後から現在の生活状況 (4) 今後の生活への影響 (5) 健康障害や治療に対する思い (6) 対象にとってのQOL
	3) 対象者の家族支援や社会資源について捉えることができる	(1) 家族からの支援状況 (2) 家族の生活 (3) 社会資源の活用状況 (4) 治療や回復に対する家族の思い、希望 (5) 家族の今後の生活への影響 (6) 他職種からの情報
	4) 対象者に必要な看護上の問題を導き出すことができる	(1) 統合した看護問題や共同問題の抽出
	5) 対象者の置かれている状況をもとに、看護上の問題の優先順位を導き出すことができる	(1) 看護問題・共同問題の優先順位を明確化
2. 慢性的な経過をたどる対象者の療養生活を支援する看護が実践できる	1) 対象者の生活機能の維持・向上のために必要な看護計画が立案できる	(1) 対象者の「実行状況（している活動）」だけでなく「能力（できる活動）」を考慮した計画立案 (2) 対象の強みを活かした計画立案 (3) 対象の意向や主体性を尊重した計画立案 (4) セルフケア能力に即した目標の設定 (5) 今後の生活を見据えた計画立案 (6) 多職種との連携を考慮した計画立案
	2) 対象者の反応を捉えながら看護を実施できる	(1) 実施前・中・後の対象者の表情・反応・言動を確認しながら実施 (2) 対象者の「している活動」だけでなく「できる活動」を考慮した実施 (3) 対象者の状況変化に対応した実施 (4) 多職種連携を活用した実施

目標	行動目標	実習内容
3. 看護学生としての自己の役割や責任を意識し、常に誠実に実習に臨むことができる	3) 実施した看護について、現在の状況や今後の見通しを踏まえて報告できる	(1) 対象者の状態変化の有無や実施した看護による影響を考察し報告 (2) 現在起こり得るリスクや今後の生活を見据えた報告 (3) 適切なタイミングに報告
	4) 実施した看護について、対象者の生活機能の維持・向上に向けた評価ができる	(1) 対象者の状態変化の有無や実施した看護による影響の評価 (2) 現在起こり得るリスクや今後の生活を見据えた評価 (3) 退院後の対象者や家族の生活を意識した計画の修正
	1) 自己の課題を意識し、主体的に学習に臨むことができる	(1) 事前学習や必要な自己学習 (2) 自ら省み学ぶ姿勢
	2) 相手を尊重した言葉遣いや立振る舞いで学習することができる	(1) すべての人を尊重した学習姿勢
	3) グループメンバー・指導者・教員への報告・連絡・相談ができる	(1) 適切なタイミングで必要な報告・連絡・相談 (2) 互いの学びを深めるための情報共有
	4) 指示された決まり事を守ることができる	(1) 守秘義務 (2) 決まり事の遵守

実習名 成人・老年看護学実習Ⅲ

時 期	3年 前期
単位（時間）	1単位（45時間）

目的：生命の危機的状況にある対象者や家族の特性を理解し、その医療現場における看護を考える

目標	行動目標	実習内容
<救急部> 1. 突然医療を必要とする対象の生命を守り、支援する看護について理解できる	1) 診療の補助、生体機能の変化に備えた観察を看護師とともにを行い全身状態を捉えるための視点が理解できる 2) 対象者の全人的苦痛の緩和にむけた看護が述べられる	(1) 侵襲の程度と生体反応 (2) 健康障害を予測した観察 (3) 診療・治療・検査時の看護 (1) 症状に応じた看護の実践
<ICU/HCU> 2. 重篤な状況にある対象の生命を守り、療養生活を支援する看護について実践を通して理解できる	1) 集中的に治療・看護を必要としている対象者の全身状態を捉えるための観察の視点が理解できる 2) 集中治療を受ける対象者に必要な援助を看護師とともに実施し、その看護について考察できる	(1) 侵襲に対する生体反応 (2) 異常の早期発見 (3) 診察・治療・検査時の看護 (1) 合併症を予防するための援助 (2) 回復を促進するための援助 (3) 生活を整えるための援助
<以下、共通> 3. 危機的状況にある対象者と家族の権利や尊厳を考えることができる	1) 対象者と家族の心理・社会的状況に関心を持ち、必要な支援について述べられる 2) クリティカルな場における看護を倫理的観点で考察できる	(1) 心理的支援 (2) 社会的支援 (3) 家族への支援 (1) 医療従事者からの説明の場面 (2) 対象者・家族の思いや希望 (3) 治療に伴う制限 (4) 治療・療養環境
4. 危機的状況におけるチームの連携と看護師の役割について理解できる	1) クリティカルな場における多職種連携の実際と看護師の役割について考察できる	(1) 対象者を取り巻く様々な職種 (2) 各部署・職種間の連携の実際 (3) 各部署での看護師の役割
5. 危機的状況における医療安全の実際とその必要性が理解できる	1) クリティカルな場における看護を医療安全の視点で考察できる	(1) 対象の安全 (2) 医療者の安全
6. 看護学生としての自己の役割や責任を意識し、常に誠実に実習に臨むことができる	1) 自己の課題を意識し、主体的に学習に臨むことができる 2) 相手を尊重した言葉遣いや立振る舞いで学習することができる 3) グループメンバー・指導者・教員への報告・連絡・相談ができる 4) 指示された決まり事を守ることができる	(1) 事前学習や必要な自己学習 (2) 自ら省み学ぶ姿勢 (1) すべての人を尊重した学習姿勢 (1) 適切なタイミングで必要な報告・連絡・相談 (2) 互いの学びを深めるための情報共有 (1) 守秘義務 (2) 決まりごとの遵守

実習名 成人・老年看護学実習Ⅳ

時 期	3年 前・後期
単位（時間）	2単位（90時間）

目的：周術期にある対象者を理解し、看護が実践できる基礎的能力を養う

目標	行動目標	実習内容
1. 周術期にある対象者を理解することができる	1) 手術によって起きる変化をふまえ、対象者の全体像を捉えられる 2) 手術侵襲によって起きる対象者の身体に生じうるリスクを予測し、科学的根拠に基づき対象者の健康状態を判断できる	(1) プロフィールの把握 (2) 健康障害を考慮した基礎情報の整理 (3) 身体的・心理的・社会的な変化と生活への影響 (1) 全身麻酔による影響 (2) 手術侵襲に対する生体反応 (3) 術式による身体機能の変化 (4) 対象者の健康状態からの影響
2. 手術室において必要な看護を見出せる	1) 手術室看護の意義を説明できる	(1) 器械出し看護師・外回り看護師の役割 (2) 多職種連携 (3) 医療安全 (4) 倫理的配慮
3. 周術期の段階に応じて必要な援助を考え、適切に実施できる	1) 手術を心身ともに良好な状態で臨めるための援助が考えられる 2) 手術侵襲から速やかに回復するために必要な援助が見出せる 3) 手術侵襲から速やかに回復するための必要な援助が実施できる 4) 手術という危機的状況や回復過程において、対象者とその家族が適応していくために必要な支援について考えられる	(1) 術前指導 (2) 術前処置 (3) 心理的援助 (1) 手術侵襲、麻酔による影響、術後生体反応、創治癒過程をふまえた対象者の状況 (2) 今必要な計画への修正 (3) 侵襲から速やかに回復するための看護 (1) 異常の早期発見と合併症予防 (2) 苦痛の緩和 (3) 療養生活を整えるための援助 (1) 回復期における支援 (2) 日常生活の継続・再構築 (3) 退院指導、退院調整 (4) 多職種協働・連携
4. 看護学生としての自己の役割や責任を意識し、常に誠実に実習に臨むことができる。	1) 自己の課題を意識し、主体的に学習に臨むことができる 2) 相手を尊重した言葉遣いや立振る舞いで学習することができる 3) グループメンバー・指導者・教員への報告・連絡・相談ができる 4) 指示された決まり事を守ることができる	(1) 事前学習や必要な自己学習 (2) 自ら省み学ぶ姿勢 (1) すべての人を尊重した学習姿勢 (1) 適切なタイミングで必要な報告・連絡・相談 (2) 互いの学びを深めるための情報共有 (1) 守秘義務 (2) 決まりごとの遵守

実習名 成人・老年看護学実習Ⅴ（エンドオブライフケア）

時 期	3 年 前・後期
単位（時間）	1 単位（45時間）

目的：エンドオブライフケアが必要な対象者を理解し、看護が実践できる能力を養う

目標	行動目標	実習内容
1. 終末期および緩和ケアを必要とする対象者と家族を総合的に理解できる。	1) 対象者やその家族が現在の状況に至るまでの経過について理解できる。 2) 対象者および家族（周囲の人）の全人的苦痛について理解できる。	(1) ACPの経過 (2) 意思決定支援 (3) 死の受容過程、悲嘆のプロセス (4) 対象者や家族のおもい (1) 身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛 (2) 対象者のニーズ (3) 家族の現在の状況と家族の抱える苦痛 (4) 家族のニーズ (5) それぞれの苦痛の関連性
2. 対象のニーズとQOLをふまえて対象に必要な看護について考えられる。	1) 対象者に必要な全人的ケアとその意義について述べられる。	(1) 全人的苦痛に対する援助の実際 ①身体的な意義 ②精神的な意義 ③社会的な意義 ④スピリチュアルな意義 (2) 暮らす中での多様な支援 (3) 家族の参加と家族への援助
3. 対象のニーズとQOLをふまえて対象に必要な看護が実践できる。	1) 対象者と家族を尊重した関わりを実施できる。 2) 対象者と家族の反応の意味を考え、必要な看護を見出せる。	(1) 対象者や家族のおもいの受け止め方 (2) さまざまな寄り添い方 (1) 反応の意味 (2) 自分の言動の省察 (3) 実施した看護の評価
4. 人生の最終段階を支える看護の意義・役割について理解できる。	1) 人生の最終段階に必要な全人的ケアとその意義について理解できる 2) チームアプローチの意義と看護の役割について理解できる。	(1) 緩和ケア病棟やホスピスの役割と機能 ①グリーフケア ②代替療法 ③緩和ケア外来 など (1) チームメンバーの専門性 (2) 構成メンバーによる活動の実際 (3) チームアプローチにおける看護の役割
5. エンドオブライフケアについて自己の考えを述べることができる。	1) 倫理的課題について考えられる。 2) 自己の死生観・看護観について論述できる。	(1) 倫理的課題が生じる場面・状況 (2) 生じたジレンマについて考える (1) 実習での学びをもとに、自己の死生観について考える (2) 実習での学びをもとに、自己の看護観の変化や、看護観に与えた影響について考える

目標	行動目標	実習内容
6. 看護学生としての自己の役割や責任を意識し、常に誠実に実習に臨むことができる。	1) 自己の課題を意識し、主体的に学習に臨むことができる。 2) 相手を尊重した言葉遣いや立振る舞いで学習することができる。 3) グループメンバー・指導者・教員への報告・連絡・相談ができる。 4) 指示された決まり事を守ることができる。	(1) 事前学習や必要な自己学習 (2) 自ら省み学ぶ姿勢 (1) すべての人を尊重した学習姿勢 (1) 適切なタイミングで必要な報告・連絡・相談 (2) 互いの学びを深めるための情報共有 (1) 守秘義務 (2) 決まりごとの遵守

実習名 小児看護学実習

時 期	3 年 前・後期
単位（時間）	2 単位 （90時間）

目的：あらゆる健康レベルにある子どもとかかわり、子どもの成長・発達や特性を理解する。また、健康な子どもや一時的な症状により診療や加療が必要な子ども、さらに地域で生活する障がいのある子どもに対する看護を理解し、その基礎的能力を養う。

1. 小児保健医療センター 実習

目的：子ども専門病院の役割や医療・保健・福祉・教育との連携の実際を知り、療養する子どもの成長発達を促す看護や家族支援について理解できる。

目標	行動目標	実習内容
1. 子どもの医療・保健・福祉・教育（療育）との連携の必要性和看護の役割について理解できる	1) 小児専門病院の特徴や、医療・保健・福祉・教育（療育）との連携の実際を知り、看護の役割と機能について述べることができる 2) 慢性疾患や先天性疾患をもつ子どもの入院生活を支え、よりよい成長発達を促すための看護の役割について述べることができる	(1) 小児保健医療センターの見学 ①設立目的・理念 ②施設の概要（各部門、職種、他職種との連携、看護体制など） (2) 外来・病棟の見学 ①子ども・家族への配慮 ②子どもへの安全・安楽の工夫 ③継続支援の実際 (1) 乳幼児病棟・学童病棟の見学 ①入院生活の実際 ・一日の過ごし方（リハビリを含めた治療・学習・遊びなどの余暇時間など） ・日常生活援助への工夫（入浴・食事・排泄など） ・安全・安楽への配慮 ・予防的ケア ・病棟での保育（個別・集団） ・学習の保障（登校・下校時の援助など） ②家族支援（面会時のかかわりなど）

2. 保育園・認定こども園 実習

目的：子どもとの遊び・生活面の援助を通して健康な子どもの成長・発達を理解し、基本的な生活習慣を獲得するための子どもとの関わりについて理解できる。

目標	行動目標	実習内容
1. 地域で生活する健康な子どもの成長発達に応じた養育と看護が理解できる	1) 各発達段階における乳幼児の成長・発達について対象者の特徴について述べることができる 2) 成長発達を促すため意図的に関わることができ、考察ができる	(1) 形態的発達 形態的变化（身長、体重、歯、頭位・体幹・四肢など） (2) 機能的発達 運動機能（粗大・微細） (3) 心理・社会的発達 認知・言語、自我・社会性 (1) 成長発達を促すための遊びや行事、学習 (2) 成長発達に応じた遊びや学びの提供（玩具・遊具・教材の活用） (3) 養育支援、学習支援

	3) 基本的生活習慣の確立や社会生活の自立に向けての援助について述べることができる 4) 健全な生活を送るための支援について述べることができる 5) 健康保健指導を計画し、実施・評価できる	(1) 園での子どもの日常生活の観察 (2) 基本的日常生活習慣の自立と獲得に向けての援助 (食事、排泄、睡眠、衣服の着脱・清潔の援助等) (3) 生活リズムの確立に向けての支援 (1) 保育園・子ども園の概要 ①園の構造 ②保育体制 ③保育園の規則・日課・行事 (2) 子どもやその家族の多様な生活背景 (3) 成長発達を促す健全な生活のための支援 ①健康管理と健康教育 ②安全管理と安全教育 ③家庭と園との連携 ④支援を要する子どもへのかかわりやサポートシステム、就学支援 (1) 健康保健指導計画の立案 ①児の成長発達の特徴 ②わかりやすい内容の工夫 (2) 児の反応をみながらの指導の実際 (3) リフレクション
--	---	---

3. 多機能型事業所ちょこらんど 実習

目的：心身や発達に障がいをもつ児への支援や養育の側面から医療ケア児への看護について学ぶ

目標	行動目標	実習内容
1. 心身や発達に障がいをもつ児が地域社会で生活する場合や多職種との連携の実際および子どもと家族へのかかわり方について理解できる	1) 心身や発達に障がいのある子どもの地域社会での生活の場や地域における機能や多職種との連携についての学びを述べるができる 2) 心身や発達に障がいをもつ子どもと家族とのかかわりを学び、子どもの健やかな成長発達に向けたかかわりについて述べるができる	(1) 心身や発達に障がいをもつ児が地域社会で生活する場合、地域における機能や多職種連携 (1) 子どもの健康障害、発達障害の状況 (2) 子どもの思いの受けとめ (3) コミュニケーションをとる方法 (4) 地域における看護の役割
2. 医療的ケア児への看護について理解できる	1) 成長発達の特徴を知り、子どもの潜在的能力を引き出す為に必要な関わりについて述べることができる 2) 障がいのある子どもの安全確保のための支援のあり方について述べることができる	(1) 子どもの障がいと発達に応じた関わり ①自立支援（潜在能力を引き出すための支援） ②医療的ケアが必要な子どもの概要と援助と実際 (1) 子どもの障がい特性とそこから生じる危険因子 (2) 障がいのある子どもに起こりやすい事故 (3) 障がいのある子どもに対する安全確保の支援

4. 小児科外来や病児・病後児保育 実習

目的：健康障害により一時的に何らかの症状がある子どもと家族に与える影響を考えてコミュニケーションや子どもの成長・発達に応じた援助について理解できる。

目標	行動目標	実習内容
1. 外来にて、健康障害のある子どもと家族が理解し、看護が実践できる	1) 健康障害による症状が子どもと家族に与える影響を理解できる	(1) 疾患や症状から出現する子どもの反応 (2) 子ども・家族の疾患や症状に対する思い (3) 子どもの反応の意味について考察 (4) 対象者を尊重したコミュニケーションの実践
	2) 子どもの成長・発達をふまえ、安全・安楽な看護が実施できる	(1) プレパレーション、ディストラクションの活用 (2) 安全性・安楽性・自立性・経済性を考慮した実施 (3) 小児特有の看護援助の見学・一部介助 ①日常生活援助（清潔・食事・排泄など） ②検査（採血・採尿・腰椎穿刺・レントゲンなど） ③薬物療法（輸液療法・吸入・座薬・経口与薬など）、服薬指導 ⑤処置（酸素吸入・吸引・浣腸・身体抑制など） (4) 子どもと家族に応じた説明と同意を見学
2. 病児保育にて、診療や加療が必要な子どもへの援助や看護が実践できる	1) 加療が必要な子どもの健康問題を理解し、基本的な生活習慣への影響や家族への影響を考察できる	(1) 今回の症状の経過 (2) 健康障害による影響・変化 (3) 症状に応じた看護の解釈・分析
	2) 子どもの健康障害をふまえた日常生活の援助や看護が実施できる	(1) 子どもと家族の意向・生活リズムに合わせた援助 (2) 安静や隔離が必要な子どもの生活の中での遊びについて考察 (3) 安全性・安楽性・自立性・経済性を考慮した実施 (4) 小児特有の看護援助の見学・一部介助 ①日常生活援助（清潔・食事・排泄など） ②薬物療法（座薬・経口与薬など）

5. 事後レポート

目標	行動目標	実習内容
1. 小児看護について発展的に考え、述べることができる	1) 自己の子ども観・小児看護観についてレポートで論述することができる	(1) 子どもの成長・発達に応じた養育や看護 (2) あらゆる健康レベルに応じた看護 (3) 子どもの権利、権利擁護（アドボカシー） (4) 遊びと学び (5) 地域での生活するための継続支援（保健・医療・福祉・教育との連携）

6. 態度面（学習姿勢）

目標	行動目標	実習内容
1. 看護学生としての自己の役割や責任を意識し、常に誠実に実習に臨むことができる	1) 自己の課題を意識し、主体的に学習に臨むことができる 2) 相手を尊重した言葉遣いや立振る舞いで学習することができる 3) グループメンバー・指導者・教員への報告・連絡・相談ができる 4) 指示された決まり事を守ることができる	(1) 事前学習や必要な自己学習 (2) 自ら省み学ぶ姿勢 (1) すべての人を尊重した学習姿勢 (1) 適切なタイミングで必要な報告・連絡・相談 (2) 互いの学びを深めるための情報共有 (1) 守秘義務 (2) 決まりごとの遵守

実習名 母性看護学実習

時 期	3 年 前・後期
単位（時間）	2 単位 （90時間）

目的：妊娠・分娩・産褥期及び新生児期にある対象の特徴を理解し、より健康を向上させるための看護実践に必要な基礎的能力を養うとともに、命と向き合い、自己の母性看護観を考える機会とする。

目 標	行 動 目 標	実 習 内 容
1. 妊娠期の対象者に必要な看護が理解できる。	1) 妊娠経過を踏まえ、週数や状態に応じた妊婦への看護について述べるができる。	(1) 入院管理の必要な妊婦への看護 (2) 妊婦健康診査の外来見学
2. 分娩期の対象者に必要な看護が理解できる。	1) 分娩期の看護について述べるができる。	(1) 分娩期の対象への看護 ①経膈分娩及び帝王切開術の見学
3. 産褥期の対象者に必要な看護が理解できる。	1) 褥婦の観察ができ、産褥経過について述べるができる。 2) 産褥日数に応じた褥婦の看護について述べるができる。	(1) 褥婦への看護 ①退行性変化及び進行性変化 ②母親役割の獲得状況 ③育児のサポート状況や社会資源の活用 (1) 看護の方向性を見出す ①保健指導の見学 ・母児同室指導・授乳指導 ・沐浴指導・退院指導・調乳指導 ②産後2週間健診の外来見学 (2) 母児への継続支援 (開業助産師による講義)
4. マタニティサイクルにある対象に必要な看護が実践できる。	1) 妊娠期・分娩期・産褥期の対象に必要な看護を見出し、実施ができる。	(1) 管理入院中の妊婦への看護 (2) 分娩期に必要な看護 (妊娠分娩期も保健指導を含む) (3) 退院後の生活を見据えた母児への保健指導の実施
5. 新生児に必要な看護が実践できる。	1) 母体の経過を踏まえて新生児の観察ができ、胎外生活適応過程について述べるができる。 2) 日齢に応じた新生児の看護について述べるができる。 3) 胎外生活への適応を促す援助を安全安楽に実施することができる。	(1) 新生児への看護 ①母体の妊娠分娩経過 ②胎外生活適応過程 (1) 看護の方向性を見出す ①胎外生活への適応を促す看護 (1) 胎外生活適応を促すために必要な日常生活援助

目標	行動目標	実習内容
6. 命および親性を育む看護について、自己の考えを述べることができる。	1) 実習におけるあらゆる場面から、命や親性を育むために必要な看護について、自己の考えを述べることができる。	(1) マタニティサイクルにある対象への看護
7. 母性看護観を述べることができる。	1) 実習における全ての学びから、自己の母性看護観を述べることができる。	(1) 実習全体を通して学んだことを踏まえ、自己の母性看護観についてレポートにまとめる
8. 看護学生としての自己の役割や責任を意識し、常に誠実に実習に臨むことができる。	1) 自己の課題を意識し、主体的に学習に臨むことができる。 2) 相手を尊重した言葉遣いや立振る舞いで学習することができる。 3) グループメンバー、指導者、教員への報告・相談・連絡ができる。 4) 指示された決まりごとを守ることができる。	(1) 自己の課題を見出し、主体的に学習できる (1) 相手を尊重する姿勢 (1) 報告・連絡・相談 (1) 決まりごとの遵守

実習名 精神看護学実習

時 期	3 年 前・後期
単位（時間）	2 単位 （90時間）

目的：精神に障害を持つ対象を理解し、看護師が対象者に与える影響を考えながら、対象者を中心とした看護が実践できる能力を養う。

目標	行動目標	実習内容
1. 精神に障害を持つ対象者を理解することができる	1) 生きてきた背景をふまえて、対象者の現在の状況について捉えることができる 2) 対象者の精神症状とそれに対する治療が対象者のくらしへの影響を解釈・分析できる 3) 対象者を統合体として理解し、看護問題を導き出すことができる 4) 対象者の個別性をふまえた看護計画が立案できる	(1) 生きてきた背景 (2) 健康障害の視点 (3) 生活者としての視点 (1) 精神症状の有無と状態 (2) 薬物療法の効果、副作用や留意点 (3) 精神療法・作業療法それぞれの目的 (4) 生きてきた背景が及ぼすくらしへの影響 (1) 対象者の困りごとや今後の希望 (2) 看護介入の必要性の明確化 (3) 解釈・分析した要因と看護問題との関連性
2. 対象者の持てる力を活かした看護が実践できる	1) 対象者の自己決定を支援し、生活が自立に向かうための援助ができる 2) 患者―看護師関係における自己の看護実践を客観的に省察できる 3) 対象者の生活が自立に向かうための継続した支援を考慮し、看護計画を評価できる 4) 日々の関わりを報告できる	(1) 対象者の意向やペースに配慮した援助 (2) 対象者自身の思いや考えの表出を支援 (3) 対象者の生活が自立に向かうための援助 (4) 対象者の反応に対応したコミュニケーションの実践 (1) 相互関係で生じた学生自身の思い・感情・身体感覚 (2) 自己のコミュニケーションの特徴を客観的に省察 (1) 対象者の生活が自立に向かうための継続した関わり (2) 目標の妥当性を含めた看護計画の評価 (1) 現在の状況・起こり得るリスクを考察し報告 (2) 自己の意図的関わりや対象者の反応を報告
3. 精神保健医療福祉の連携と看護の役割を理解することができる	1) 精神障害者の地域生活支援について自己の考えが述べられる	(1) 利用者・療養者の生活状況 (2) 施設の概要と活動内容 (3) 利用者・療養者に必要な支援
4. 看護学生としての自己の役割や責任を意識し、常に誠実に実習に臨むことができる	1) 自己の課題を意識し、主体的に学習に臨むことができる 2) 相手を尊重した言葉遣いや立振る舞いで学習することができる 3) グループメンバー・指導者・教員への報告・連絡・相談ができる 4) 指示された決まり事を守るすることができる	(1) 事前学習や必要な自己学習 (2) 自ら省み学ぶ姿勢 (1) すべての人を尊重した学習姿勢 (1) 適切なタイミングで必要な報告・連絡・相談 (2) 互いの学びを深めるための情報共有 (1) 守秘義務 (2) 決まりごとの遵守

実習名 統合実習

時 期	3 年 後期
単位（時間）	2 単位 （90時間）

目的：これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、臨床現場に近い実習を通して医療チームの一員として役割遂行を目指した看護実践力を高める

目 標	行 動 目 標	実 習 内 容
1. 看護サービスのマネジメントにおいて、マネジメントプロセスの実際が理解できる	1) 看護局の役割が述べられる 2) 病棟師長の業務と役割が述べられる	(1) 看護局の組織 (2) 看護局の目標 (3) 病棟との連携 (4) 看護局の意義 (1) 病棟師長業務の実際 (2) 看護局との連携 (3) 病棟の特殊性
2. 看護ケアマネジメントにおいて、24時間を通しての実際が理解できる	1) リーダー・メンバーを通して指示・命令・指導の実際が理解できる 2) 夜勤帯の看護実際を通して対象者の安全・安楽を確保する援助が理解できる	(1) リーダーの役割と業務 (2) メンバーの役割と業務 (3) リーダー、メンバーとの調整 (4) 多職種、家族との調整 (5) 看護の継続性 (1) 夜勤帯の看護体制 (2) 対象者の安全を守る援助 (3) 対象者の安楽を確保する援助 (4) 夜勤帯の入院受け入れ
3. 医療チームとして看護の実践ができる	1) 複数の受け持ち対象者に対し、健康状態をふまえた一日（24時間）の生活を考慮した行動計画が立案できる 2) 複数の受け持ち対象者のその時の状況をふまえた実施ができる 3) 実施した看護について評価ができる 4) 複数の受け持ち対象者に対し立案した行動計画について評価できる	(1) 受け持ち対象者の看護診断・看護目標・看護計画が立案された根拠 (2) 受け持ち対象者の状態・状況から、必要な援助と優先順位を考慮した1日の行動計画 (1) 援助の実施におけるリーダー、メンバーとの調整 (2) 対象者の状態に応じた方法の選択 (3) 対象者の反応を捉えながらの実施 (1) 対象者の目標に基づいた評価 (2) 次の援助へ向けた計画の修正 (1) 計画と実際についての要因分析 (2) 対象者の状態を捉えた変更 (3) 実施した行動計画の評価
4. 1年生への指導ができる	1) 適切に実施するための支援ができる 2) 1年生の理解が深まる指導ができる	(1) 1年生との調整 (2) 1年生との援助の実施と報告 (1) 実施をふまえた1年生への助言
5. 看護学生としての自己の役割や責任を意識し、常に誠実に実習に臨むことができる	1) 自己の課題を意識し、主体的に学習に臨むことができる 2) 相手を尊重した言葉遣いや立振る舞いで学習することができる 3) グループメンバー・指導者・教員への報告・連絡・相談ができる 4) 指示された決まり事を守ることができる	(1) 事前学習や必要な自己学習 (2) 自ら省み学ぶ姿勢 (1) 全ての人を尊重した学習姿勢 (1) 適切なタイミングで必要な報告・連絡・相談 (2) 互いの学びを深めるための情報共有 (1) 守秘義務 (2) 決まりごとの遵守